

# 1 集団検診

## 1 調査目的

がん検診における発見がん患者の精密検査結果の詳細を把握することにより、検診の評価を行い、精度管理の維持・向上を図る。

## 2 調査対象

平成28年度の出張型住民検診における胃・肺・大腸・子宮・乳・前立腺の各がん検診受診者のうち、精密検査結果が「がん」または「がん疑い」と報告のあった者

## 3 調査内容

調査内容は、当事業団が実施した胃・肺・大腸・子宮・乳・前立腺の各がん検診における発見がん患者の精密検査結果および治療状況等とし、各がん取り扱い規約に基づいた内容について更なる詳細結果（報告）を求めた。

### 1] 取得方法

調査依頼先に対象者の発見がん追跡調査票を書留にて郵送し、回収した。

### 2] 調査依頼先

対象者の精密検査結果報告が提供された医療機関、または紹介先医療機関

### 3] 調査期間

初回調査：平成29年9月～10月

再調査：平成29年11月～12月

再調査は、以下の場合に実施

- (1) 初回調査の結果、転院が判明した者
- (2) 初回調査後、新たに精密検査結果が「がん」または「がん疑い」で戻ってきた者

## 平成28年度出張型住民検診における発見がん追跡調査結果

平成30年1月31日現在

### 1 平成28年度事業団における発見がん調査結果

	胃がん	肺がん		大腸がん	子宮頸がん			乳がん	前立腺がん
		単純X線	ヘリカルCT		細胞診	HPV併用	ASC-US時 HPV併用		
受診者数	49,675	73,610	1,082	75,611	1,438	7,146	31,741	50,308	25,993
要精検者数	4,469	1,653	90	4,065	26	322	623	2,281	1,933
要精検率(%)	(9.0)	(2.2)	(8.3)	(5.4)	(1.8)	(4.5)	(2.0)	(4.5)	(7.4)
精検受診者数	3,793	1,474	87	3,141	26	299	547	2,041	1,391
精検受診率(%)	(84.9)	(89.2)	(96.7)	(77.3)	(100.0)	(92.9)	(87.8)	(89.5)	(72.0)
追跡調査回収率(%)	(92.4)	(91.6)		(92.2)	(92.4)		(94.8)	(95.3)	
発見がん数	57	56	0	117	0	4	13	109	117
がん発見率(%)	(0.11)	(0.08)	(0.0)	(0.15)	(0.0)	(0.06)	(0.04)	(0.22)	(0.45)
早期がん割合*	(53.9)	(33.9)	-	(63.2)	-	(75.0)	(100.0)	(76.1)	(77.7)
陽性反応適中度	(1.3)	(3.4)	(0.0)	(2.9)	(0.0)	(1.2)	(2.1)	(4.8)	(6.1)

\*早期がん割合は、早期・進行のstageが不明であった者を除いて集計した

### 2 平成28年度 栃木県におけるがん検診実施状況（栃木県健康診査実施状況調査より）

	胃がん	肺がん	大腸がん	子宮頸がん	乳がん (指針方式)	乳がん (指針外方式)
受診者数	86,981	166,874	170,754	91,988	80,146	7,200
要精検率(%)	(6.60)	(2.72)	(6.06)	(1.95)	(4.82)	(2.83)
精検受診率(%) (平成27年度確定)	(83.2)	(83.4)	(72.8)	(83.0)	(95.1)	(89.0)

\*平成28年度の精検受診率は未発表のため、平成27年度確定値を掲載

### 3 平成28年度 日本対がん協会全国集計におけるがん検診実施状況（住民）

（日本対がん協会がん検診の実施状況より）

	胃がん*	肺がん	大腸がん	子宮頸がん	乳がん	前立腺がん
受診者数	2,242,063	3,348,270	2,535,814	1,291,279	1,282,756	443,750
要精検率(%)	(6.51)	(1.98)	(6.05)	(1.40)	(4.68)	(6.04)
精検受診率(%)	(79.9)	(79.5)	(69.1)	(83.8)	(90.1)	(63.0)

\*胃がん検診とは、X線検査と内視鏡検査を合わせた数を計上

### 4 がん検診に関する事業評価指標と許容値及び目標値（案）

（がん検診の事業評価に関する委員会報告書より）

		胃がん	肺がん	大腸がん	子宮がん	乳がん
精検受診率	許容値	70以上	70以上	70以上	70以上	80以上
	目標値	90以上	90以上	90以上	90以上	90以上
要精検率	許容値	11.0以下	3.0以下	7.0以下	1.4以下*	11.0以下*
がん発見率	許容値	0.11以上	0.03以上	0.13以上	0.05以上*	0.23以上*
陽性反応適中度	許容値	1.0以上	1.3以上	1.9以上	4.0以上*	2.5以上*

\*乳がん検診、子宮がん検診の要精検率、がん発見率、陽性反応適中度は参考値とする

## 平成28年度 出張型住民健診における発見胃がん追跡調査結果

平成30年1月31日現在

### 【胃X線検査】

#### 1 検診実施状況

	受診者数	要精検者数(%)	精検受診者数(%)
男	21,709	2,497 (11.5)	2,026 (81.1)
女	27,966	1,972 (7.1)	1,767 (89.6)
総数	49,675	4,469 (9.0)	3,793 (84.9)

#### 2 精検結果内訳

	早期がん (a)	進行がん (b)	がん疑い (c)	食道がん (d)	その他の悪性腫瘍 (e)	粘膜下腫瘍 (f)	胃潰瘍 (g)	胃潰瘍痕 (h)	十二指腸潰瘍 (i)	十二指腸潰瘍痕 (j)	胃ポリープ (k)	異型上皮 (l)	萎縮性胃炎 (m)	その他の胃炎 (n)	その他の疾患 (o)	異常なし (p)	結果未把握* (q)	精検未受診 (r)	総数 (s)
男	32	17	18	2	1	42	60	136	20	53	207	6	903	196	78	235	20	471	2,497
女	4	5	6	0	0	74	30	60	9	31	269	1	794	171	68	232	13	205	1,972
総数	36	22	24	2	1	116	90	196	29	84	476	7	1,697	367	146	467	33	676	4,469

\*結果未把握とは、受診は判明しているが診断名が不明の者

#### 3 発見胃がん追跡調査結果

##### 1] 調査状況

	追跡調査対象者数 (d+a+b+c)	調査除外内訳			調査数 (d-(e+f+g))	回収数(%)
		詳細把握 (e)*	がん以外 (f)**	その他 (g)***		
男	67	3	0	0	64	58 (90.6)
女	15	0	0	0	15	15 (100.0)
総数	82	3	0	0	79	73 (92.4)

\* 詳細把握：発見胃がん追跡調査前にかんがんと判明し、かつその詳細結果を把握できた者

\*\* がん以外：発見胃がん追跡調査前にかんがん以外の疾患であることを把握できた者

\*\*\* その他：初回調査及び再調査実施後、新たに医療機関よりがん又はがん疑いと精検結果の報告を受け、今回の調査期間中に調査を実施出来なかった者やがんが判明したが精検医療機関が不明な者

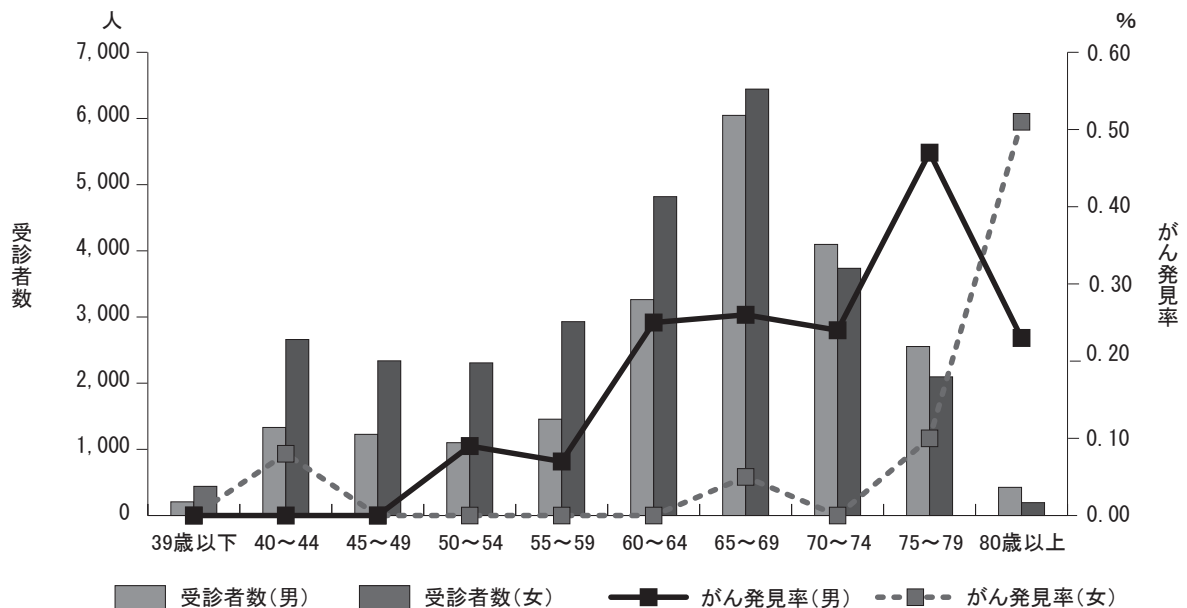
2] 調査結果内訳（調査回収数及び調査前に発見がんの詳細を把握していた数を合せた詳細）

	発見がん			食道がん (%)	良性疾患 (%)	異常なし (%)	未確定 (%)
	早期 (%)	進行 (%)	不明 (%)				
男	36 (59.0)	10 (16.4)	3 (4.9)	0 (0.0)	11 (18.0)	1 (1.6)	0 (0.0)
女	5 (33.3)	2 (13.3)	1 (6.7)	1 (6.7)	5 (33.3)	0 (0.0)	1 (6.7)
総数	41 (53.9)	12 (15.8)	4 (5.3)	1 (1.3)	16 (21.1)	1 (1.3)	1 (1.3)

3] 発見がん内訳

	受診者数	要精検者数 (%)	精検受診者数 (%)	発見がん数 (%)
男				
39歳以下	207	10 (4.8)	6 (60.0)	0 (0.00)
40～44歳	1,331	77 (5.8)	59 (76.6)	0 (0.00)
45～49歳	1,227	79 (6.4)	59 (74.7)	0 (0.00)
50～54歳	1,101	106 (9.6)	68 (64.2)	1 (0.09)
55～59歳	1,456	133 (9.1)	104 (78.2)	1 (0.07)
60～64歳	3,263	399 (12.2)	300 (75.2)	8 (0.25)
65～69歳	6,047	797 (13.2)	656 (82.3)	16 (0.26)
70～74歳	4,097	506 (12.4)	429 (84.8)	10 (0.24)
75～79歳	2,554	338 (13.2)	294 (87.0)	12 (0.47)
80歳以上	426	52 (12.2)	51 (98.1)	1 (0.23)
計	21,709	2,497 (11.5)	2,026 (81.1)	49 (0.23)
女				
39歳以下	441	17 (3.9)	15 (88.2)	0 (0.00)
40～44歳	2,660	100 (3.8)	85 (85.0)	2 (0.08)
45～49歳	2,338	117 (5.0)	98 (83.8)	0 (0.00)
50～54歳	2,307	109 (4.7)	91 (83.5)	0 (0.00)
55～59歳	2,930	183 (6.2)	162 (88.5)	0 (0.00)
60～64歳	4,819	353 (7.3)	310 (87.8)	0 (0.00)
65～69歳	6,444	515 (8.0)	475 (92.2)	3 (0.05)
70～74歳	3,736	328 (8.8)	300 (91.5)	0 (0.00)
75～79歳	2,096	227 (10.8)	213 (93.8)	2 (0.10)
80歳以上	195	23 (11.8)	18 (78.3)	1 (0.51)
計	27,966	1,972 (7.1)	1,767 (89.6)	8 (0.03)
総数	49,675	4,469 (9.0)	3,793 (84.9)	57 (0.11)

図1 性・年齢別受診者数とがん発見率



#### 4] 発見がんの詳細

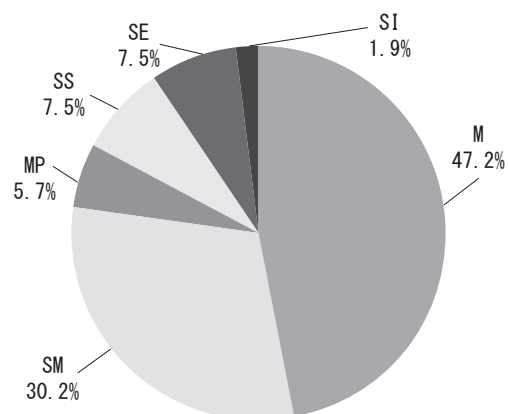
深達度	早期		進行				不明
	M	SM	MP	SS	SE	SI	
男	23	13	2	4	3	1	3
女	2	3	1	0	1	0	1
総数	25	16	3	4	4	1	4

※以下の表 5] ~ 11] は深達度不明の4名を除き集計した

#### 5] 早期・進行別発見数

	深達度	発見数	総数 (%)
早期	M	25	41 (77.4)
	SM	16	
進行	MP	3	12 (22.6)
	SS	4	
	SE	4	
	SI	1	
総数		53	53 (100.0)

図2 早期・進行別発見割合



#### 6] 肉眼的分類別発見数

肉眼的分類	発見数
I + II b	1
II a	8
II a+ II c	4
II a+ III	1
0型 II b	2
II c	20
II c+ II a	2
II c+ III	2
III	1
2型	5
3型	6
4型	1
総数	53

#### 7] Stage (進行度) 分類別発見数

Stage (進行度)	発見数
I A	37
I B	4
II A	5
II B	3
III B	2
III C	2
総数	53

8] 部位（壁在）分類別発見数

	早期	進行	総数
前壁	4	1	5
後壁	10	3	13
大彎	9	0	9
小彎	18	8	26
総数	41	12	53

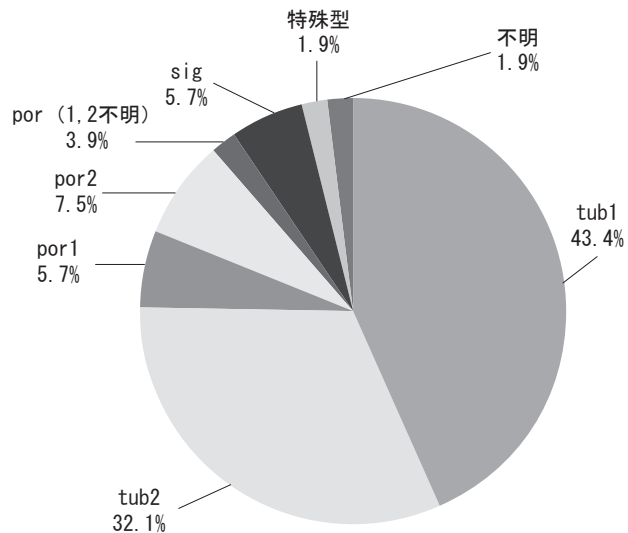
9] 部位（UML）分類別発見数

	早期	進行	総数
U	8	0	8
UM	0	2	2
M	13	5	18
ML	4	4	8
L	15	1	16
未記入	1	0	1
総数	41	12	53

10] 組織型分類別発見数

組織型	発見数
tub1	23
tub2	17
por1	3
por2	4
por (1,2不明)	1
sig	3
特殊型	1
不明	1
総数	53

図3 組織型分類別発見割合



11] 治療分類別発見数

	発見数
外科手術	23
腹腔鏡下手術	11
内視鏡的治療	18
経過観察	1
総数	53

12] 初回受診、非初回受診別発見数

		受診者数	要精検者数	精検受診者数 (%)	発見がん内訳			発見数 (%)
					早期 (%)	進行 (%)	不明	
初回受診	男	4,133	551	423 (76.8)	10 (66.7)	5 (33.3)	1	16 (0.39)
	女	5,589	457	388 (84.9)	1 (50.0)	1 (50.0)	0	2 (0.04)
	計	9,722	1,008	811 (80.5)	11 (64.7)	6 (35.3)	1	18 (0.19)
非初回受診	男	17,576	1,946	1,603 (82.4)	26 (83.9)	5 (16.1)	2	33 (0.19)
	女	22,377	1,515	1,379 (91.0)	4 (80.0)	1 (20.0)	1	6 (0.03)
	計	39,953	3,461	2,982 (86.2)	30 (83.3)	6 (16.7)	3	39 (0.10)
総数		49,675	4,469	3,793 (84.9)	41 (77.4)	12 (22.6)	4	57 (0.11)

※早期・進行割合は深達度不明4名を除いた割合

※平成28年度地域保健・健康増進事業報告より、

初回：当該年度を含まない過去3年間のうち、1回も胃がん検診を受診していない者

非初回：当該年度を含まない過去3年間のうち、1回以上胃がん検診を受診している者

## 【胃がんリスク検診】

### 1 検診実施状況

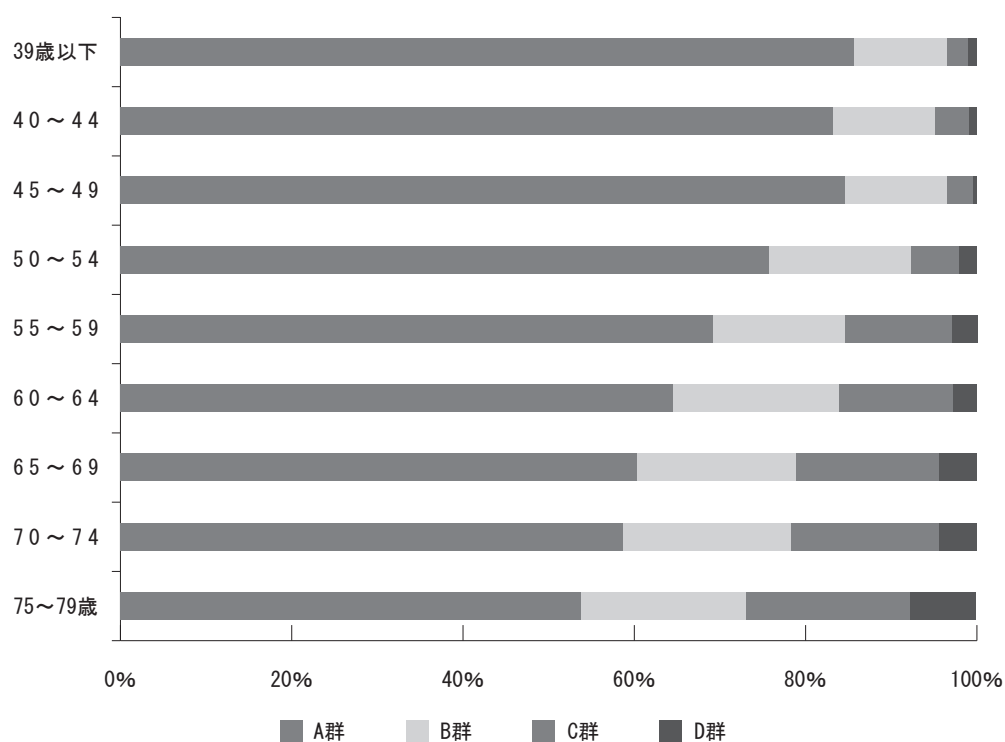
#### 1] 判定区分

	異常認めず		要二次検査	
	A群	B群	C群	D群
ペプシノゲン検査	-	-	+	+
ヘリコバクター・ピロリ抗体検査	-	+	+	-

#### 2] 判定区分内訳

年齢	受診者数	A群(%)	B群(%)	C群(%)	D群(%)	B+C+D群(%)
39歳以下	457	391 (85.6)	50 (10.9)	11 (2.4)	5 (1.1)	66 (14.4)
40～44歳	829	690 (83.2)	98 (11.8)	33 (4.0)	8 (1.0)	139 (16.8)
45～49歳	650	550 (84.6)	77 (11.8)	20 (3.1)	3 (0.5)	100 (15.4)
50～54歳	507	384 (75.7)	84 (16.6)	28 (5.5)	11 (2.2)	123 (24.3)
55～59歳	642	444 (69.2)	98 (15.3)	81 (12.6)	19 (3.0)	198 (30.8)
60～64歳	954	615 (64.5)	185 (19.4)	127 (13.3)	27 (2.8)	339 (35.5)
65～69歳	1,202	725 (60.3)	222 (18.5)	202 (16.8)	53 (4.4)	477 (39.7)
70～74歳	888	521 (58.7)	174 (19.6)	153 (17.2)	40 (4.5)	367 (41.3)
75～79歳	52	28 (53.8)	10 (19.2)	10 (19.2)	4 (7.7)	24 (46.2)
総数	6,181	4,348 (70.3)	998 (16.1)	665 (10.8)	170 (2.8)	1,833 (29.7)

図1 年齢別判定内訳割合



### 3] 二次検査受診状況

	受診者数	要二次検査者数 (%)	二次検査受診者数 (%)
男	2,025	657 (32.4)	481 (73.2)
女	4,156	1,176 (28.3)	979 (83.2)
総数	6,181	1,833 (29.7)	1,460 (79.7)

## 2 二次検査結果内訳

	早 期 が ん (a)	進 行 が ん (b)	が ん 疑 い (c)	食 道 が ん	そ の 他 の 胃 悪 性 腫 瘍	粘 膜 下 腫 瘍	胃 潰 瘍	胃 潰 瘍 癒 痕	十 二 指 腸 潰 瘍 ・ 癒 痕	胃 ポ リ プ	異 型 上 皮	萎 縮 性 胃 炎	そ の 他 の 胃 炎	逆 流 性 食 道 炎	そ の 他 の 疾 患	異 常 な し	結 果 未 把 握 *	二 次 検 査 未 受 診	総 数
男	5	1	3	2	0	2	10	13	19	28	0	301	29	2	1	60	5	176	657
女	3	2	4	0	0	4	7	14	37	50	0	699	32	5	2	104	16	197	1,176
総数	8	3	7	2	0	6	17	27	56	78	0	1,000	61	7	3	164	21	373	1,833

\*結果未把握とは、受診は判明しているが診断名が不明の者

## 3 発見胃がん追跡調査結果

### 1] 調査状況

	追跡調査 対象者数 (d=a+b+c)*	調 査 除 外 内 訳			調 査 数 (d-(e+f+g))	回収数 (%)
		詳細把握 (e)**	がん以外 (f)***	その他 (g)****		
男	9	0	0	0	9	9 (100.0)
女	9	0	0	0	9	8 (88.9)
総数	18	0	0	0	18	17 (94.4)

\* 胃X線検診で追跡調査の対象となった3名を含む

\*\* 詳細把握：発見胃がん追跡調査前に、がんと判明しかつその詳細結果を把握できた者

\*\*\* がん以外：発見胃がん追跡調査前に、がん以外の疾患であることを把握できた者

\*\*\*\* そ の 他：初回調査及び再調査実施後、新たに医療機関よりがん又はがん疑いと精検結果の報告を受け、今回の調査期間中に調査を実施出来なかった者やがんと判明しているものの精検医療機関が不明な者等



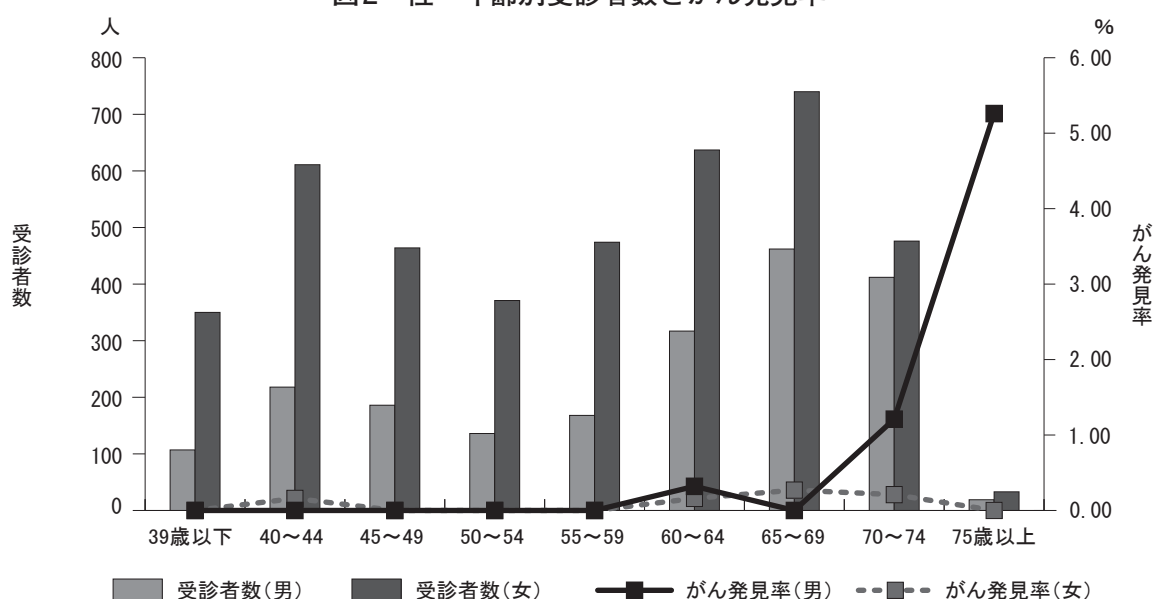
## 2] 調査結果内訳

	発見がん		良性疾患 (%)
	早期 (%)	進行 (%)	
男	6 (66.7)	1 (11.1)	2 (22.2)
女	3 (37.5)	2 (25.0)	3 (37.5)
総数	9 (52.9)	3 (17.6)	5 (29.4)

## 3] 発見がん内訳

	受診者数	要二次検査者数 (%)	二次検査受診者数 (%)	発見がん数 (%)	
男	39歳以下	107	16 (15.0)	9 (56.3)	0 (0.0)
	40～44歳	218	34 (15.6)	24 (70.6)	0 (0.0)
	45～49歳	186	27 (14.5)	19 (70.4)	0 (0.0)
	50～54歳	136	42 (30.9)	23 (54.8)	0 (0.0)
	55～59歳	168	48 (28.6)	32 (66.7)	0 (0.0)
	60～64歳	317	112 (35.3)	86 (76.8)	1 (0.32)
	65～69歳	462	200 (43.3)	150 (75.0)	0 (0.0)
	70～74歳	412	169 (41.0)	130 (76.9)	5 (1.21)
	75～79歳	19	9 (47.4)	8 (88.9)	1 (5.26)
	計	2,025	657 (32.4)	481 (73.2)	7 (0.35)
女	39歳以下	350	50 (14.3)	34 (68.0)	0 (0.0)
	40～44歳	611	105 (17.2)	80 (76.2)	1 (0.16)
	45～49歳	464	73 (15.7)	57 (78.1)	0 (0.0)
	50～54歳	371	81 (21.8)	58 (71.6)	0 (0.0)
	55～59歳	474	150 (31.6)	125 (83.3)	0 (0.0)
	60～64歳	637	227 (35.6)	199 (87.7)	1 (0.16)
	65～69歳	740	277 (37.4)	245 (88.4)	2 (0.27)
	70～74歳	476	198 (41.6)	170 (85.9)	1 (0.21)
75～79歳	33	15 (45.5)	11 (73.3)	0 (0.0)	
計	4,156	1,176 (28.3)	979 (83.2)	5 (0.12)	
総数	6,181	1,833 (29.7)	1,460 (79.7)	12 (0.19)	

図2 性・年齢別受診者数とがん発見率



#### 4] リスク分類別発見がん

	B群	C群	D群	総数
二次検査受診者数	775	549	136	1,460
発見がん数	3	9	0	12
発見率(%)	(0.39)	(1.64)	-	(0.82)

#### 5] 発見がんの詳細

深達度	早期		進行	
	M	SM	MP	SE
男	3	3	1	0
女	3	0	0	2
総数	6	3	1	2

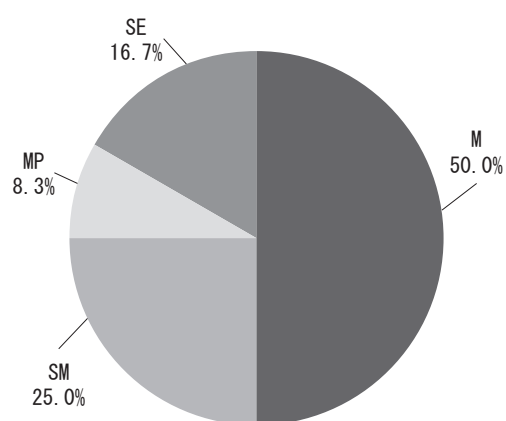
#### 6] 早期・進行別発見数

	深達度	発見数	総数(%)
早期	M	6	9 (75.0)
	SM	3	
進行	MP	1	3 (25.0)
	SE	2	
総数		12	12 (100.0)

#### 7] 肉眼的分類別発見数

肉眼的分類	発見数
0型	
II a	3
II a+ II c	1
II b	1
II c	4
1型	1
3型	1
4型	1
総数	12

図3 深達度別発見割合



#### 8] Stage (進行度) 別発見数

Stage (進行度)	発見数
I A	8
II A	2
III B	1
III C	1
総数	12

9] 部位（壁在）別発見数

	早期	進行	総数
前壁	1	0	1
後壁	3	0	3
大彎	2	0	2
小彎	3	2	5
全周	0	1	1
総数	9	3	12

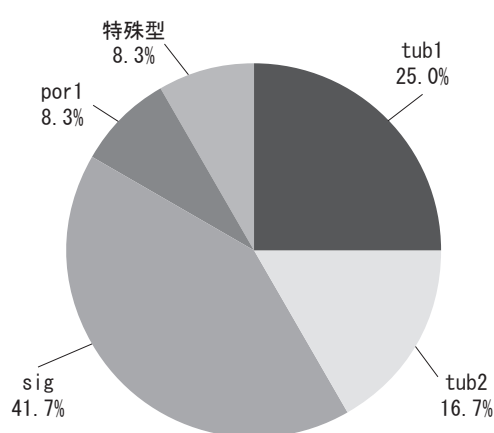
10] 部位（UML）別発見数

	早期	進行	総数
U	3	1	4
M	3	1	4
L	3	0	3
全体	0	1	1
総数	9	3	12

11] 組織型別発見数

組織型	B群	C群	D群	総数
tub1	0	3	0	3
tub2	0	2	0	2
sig	2	3	0	5
Por1	0	1	0	1
特殊型	1	0	0	1
総数	3	9	0	12

図4 組織型別発見割合



12] 治療分類別発見数

	発見数
外科手術	5
腹腔鏡下手術	4
内視鏡的治療	2
経過観察	1
総数	12

4 まとめ

平成28年度胃X線検査における胃がん発見率は0.11%、要精検率9.0%、陽性反応適中度1.3%であり、がん検診事業評価指標で示している許容値を満たしている。精検受診率は84.9%で昨年同様、目標値の90.0%は満たせていない。また、初回受診と非初回受診のがん発見数を比較すると、早期がんの割合は初回受診64.7%、非初回受診83.3%であり、経年受診で早期がん割合が高かった。これらのことから、精検受診率を高めるための働きかけや、経年受診の必要性について周知していく必要があると考えられる。

平成28年度の胃がんリスク検診は7市2町において実施され受診者数は昨年度より747人減少の6,181人（男性2,025人、女性4,156人）であり、男性7人、女性5人のがんが確定された。胃がんリスク検診の胃がん発見率は0.19%、陽性反応適中度0.7%であった。男女別にみるとがん発見率は男性0.35%、女性0.12%であり、例年の如く男性のがん発見率が高かった。胃がんリスク検診でB・C・D群と判定された者は胃がんにかかりやすい状態にあるため、血液検査だけで終わらせず確実に専門の医療機関で二次検査を受診することが重要であると考えられる。

付表1 がん検診事業評価指標値との比較

	受診者数	要精検者数 (%)	精検受診率 (%)	確定がん数 (%)	陽性反応 適中度 (%)
平成28年度	49,675	4,469 (9.0)	(84.9)	57 (0.11)	(1.3)
平成27年度	52,063	4,911 (9.4)	(84.4)	78 (0.15)	(1.6)
平成26年度	51,381	4,697 (9.1)	(83.6)	80 (0.16)	(1.7)
がん検診 事業評価 指標値	許容値	11.0以下	70.0以上	0.11以上	1.0以上
	目標値		90.0以上		

付表2 胃がんリスク検診における発見がん調査結果

	受診者数	要二次検査者数 (%)	二次検査 受診率 (%)	発見がん数 (%)	陽性反応 適中度 (%)
平成28年度	6,181	1,833 (29.7)	(79.7)	12 (0.19)	(0.7)
平成27年度	6,928	2,381 (34.4)	(77.4)	16 (0.23)	(0.7)
平成26年度	7,107	2,784 (39.2)	(76.3)	20 (0.28)	(0.7)

## 平成28年度 出張型住民健診における発見肺がん追跡調査結果

平成30年1月31日現在

### 1 検診実施状況

		受診者数	要 精 検 者 数			精検 受診者数*(%)
			D判定	E判定	(%)	
男	胸部X線	28,978	266	833	(2.9)	729 (87.5)
	胸部X線 + 喀痰細胞診	1,240	23	42	(3.4)	33 (78.6)
	計	30,218	289	875	(2.9)	762 (87.1)
女	胸部X線	43,178	239	775	(1.8)	709 (91.5)
	胸部X線 + 喀痰細胞診	214	1	3	(1.4)	3 (100.0)
	計	43,392	240	778	(1.8)	712 (91.5)
総 数	胸部X線	72,156	505	1,608	(2.2)	1,438 (89.4)
	胸部X線 + 喀痰細胞診	1,454	24	45	(3.1)	36 (80.0)
	総 数	73,610	529	1,653	(2.2)	1,474 (89.2)

※要精検者数 D判定は「肺癌以外の疾患を疑う」、E判定は「肺癌の疑い」

\*精検受診者数は、要精検E判定者のみ計上

### 2 精検結果内訳 (肺がん検診要精検者E判定1,653名の精検結果内訳)

	原 発 性 肺 が ん (a)	肺 が ん 疑 い (b)	転 移 性 肺 腫 瘍	悪 性 腫 瘍 以 外 の 肺 腫 瘍	縦 隔 腫 瘍	そ の 他 の 悪 性 腫 瘍	活 動 性 肺 結 核 疑 い	不 活 動 性 肺 結 核 疑 い	肺 結 核 治 癒	そ の 他 の 呼 吸 器 疾 患	循 環 器 疾 患	そ の 他 の 異 常	異 常 認 め ず	結 果 未 把 握 *1	精 検 未 受 診	総 数
男	14	69	1	8	3	0	4	11	3	250	5	18	366	10	113	875
女	6	44	3	10	4	0	2	6	6	223	9	31	362	6	66	778
総数	20	113	4	18	7	0	6	17	9	473	14	49	728	16	179	1,653

\*1結果未把握とは、受診は判明しているが診断名は不明の者

### 3 発見がん追跡調査結果

#### 1] 調査状況

	対象者数* (c=a+b)	調査除外内訳 (d)			追跡 調査数 (c-d)	回収数 (%)	
		詳細把握**	がん以外***	その他****			
男	83	1	6	1	75	70	(93.3)
女	50	0	6	0	44	39	(88.6)
総数	133	1	12	1	119	109	(91.6)

\* 対象者数：前項にて、原発性肺がん及び肺がん疑いであった者の総数

\*\* 詳細把握：発見がん追跡調査前にかんと判明し、かつその詳細結果を把握できた者

\*\*\* がん以外：発見がん追跡調査前にかん以外の疾患であることを把握できた者

\*\*\*\* そ の 他：初回調査及び再調査実施後、新たに医療機関よりがん又はがん疑いと精検結果の報告を受け、今回の調査期間中に調査を実施出来なかった者やがんと判明しているものの精検医療機関が不明な者等

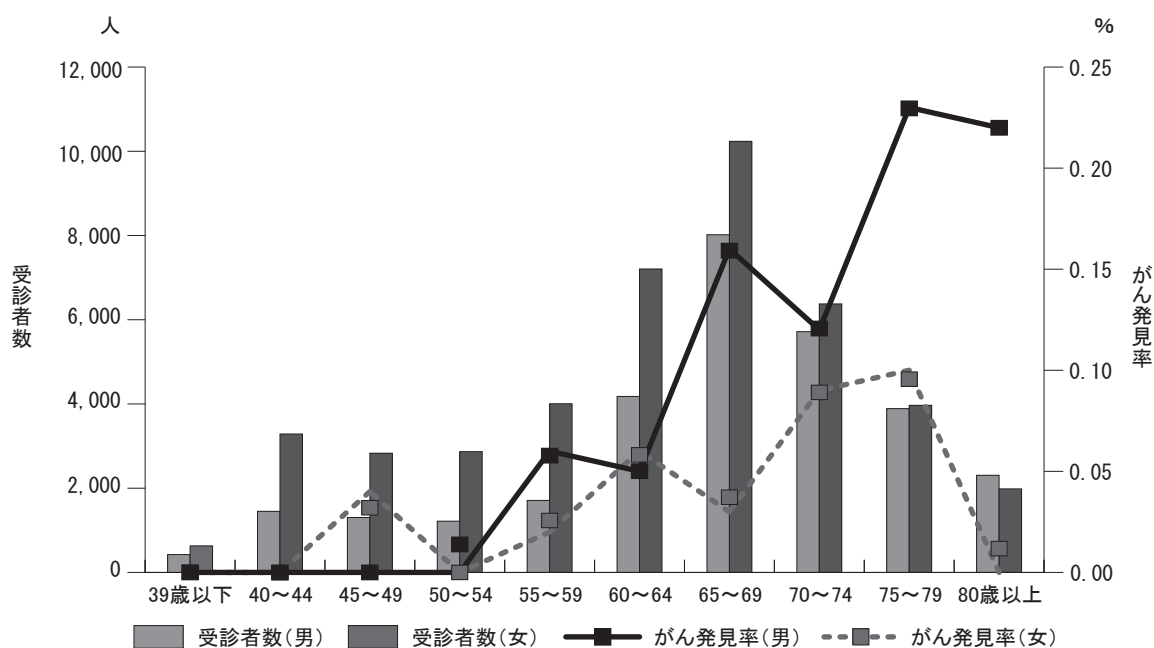
#### 2] 調査結果内訳（調査数と調査前に発見がんの詳細を把握していた数を合せた詳細）

	発 見 が ん			その他 (%)	異常 なし (%)	経過 観察 (%)	未確定 (%)	追跡 不能 (%)
	I 期 (%)	I 期外 (%)	不明 (%)					
男	15 (19.7)	22 (28.9)	0 (0.0)	23 (30.3)	2 (2.6)	8 (10.5)	1 (1.3)	5 (6.6)
女	15 (34.1)	4 (9.1)	0 (0.0)	20 (45.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	5 (11.4)
総数	30 (25.0)	26 (21.7)	0 (0.0)	43 (35.8)	2 (1.7)	8 (6.7)	1 (0.8)	10 (8.3)

### 3] 発見がん内訳

	受診者数	要精検者数 (%)	精検受診数 (%)	発見がん数 (%)	
男	39歳以下	424	3 (0.7)	3 (100.0)	0 (0.00)
	40～44歳	1,451	17 (1.2)	12 (70.6)	0 (0.00)
	45～49歳	1,304	18 (1.4)	14 (77.8)	0 (0.00)
	50～54歳	1,217	17 (1.4)	16 (94.1)	0 (0.00)
	55～59歳	1,710	28 (1.6)	22 (78.6)	1 (0.06)
	60～64歳	4,179	104 (2.5)	82 (78.8)	2 (0.05)
	65～69歳	8,019	241 (3.0)	211 (87.6)	13 (0.16)
	70～74歳	5,717	170 (3.0)	150 (88.2)	7 (0.12)
	75～79歳	3,890	168 (4.3)	151 (89.9)	9 (0.23)
	80歳以上	2,307	109 (4.7)	101 (92.7)	5 (0.22)
	計	30,218	875 (2.9)	762 (87.1)	37 (0.12)
女	39歳以下	631	2 (0.3)	2 (100.0)	0 (0.00)
	40～44歳	3,287	16 (0.5)	11 (68.8)	0 (0.00)
	45～49歳	2,831	16 (0.6)	13 (81.3)	1 (0.04)
	50～54歳	2,868	29 (1.0)	25 (86.2)	0 (0.00)
	55～59歳	4,006	50 (1.2)	47 (94.0)	1 (0.02)
	60～64歳	7,205	130 (1.8)	121 (93.1)	4 (0.06)
	65～69歳	10,236	172 (1.7)	159 (92.4)	3 (0.03)
	70～74歳	6,376	154 (2.4)	144 (93.5)	6 (0.09)
	75～79歳	3,968	135 (3.4)	124 (91.9)	4 (0.10)
	80歳以上	1,984	74 (3.7)	66 (89.2)	0 (0.00)
	計	43,392	778 (1.8)	712 (91.5)	19 (0.04)
総数	73,610	1,653 (2.2)	1,474 (89.2)	56 (0.08)	

図1 性・年齢別受診者数とがん発見率



4] 検査方法別発見がん数及び発見率

	実施人数	要精検者数(%)	精検受診者数(%)	発見がん数(%)
胸部 X 線	73,610	1,653 (2.2)	1,474 (89.2)	56 (0.08)
ヘリカルCT	1,082	90 (8.3)	87 (96.7)	0 (0.00)
総 数	74,692	1,743 (2.3)	1,561 (89.6)	56 (0.07)

5] 検診実施状況（胸部CT検診）

	受診者数	要精検者数(%)	精検受診者数(%)
胸部CT	1,058	87 (8.2)	84 (96.6)
胸部CT + 喀痰細胞診	24	3 (12.5)	3 (100.0)

6] 発見がん内訳（胸部CT検診）

該当者なし

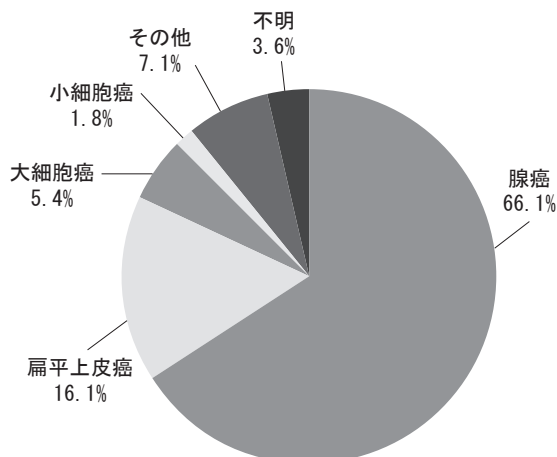


7] 発見がん内訳（胸部CT検診以外）

(1) 組織分類別発見数

	男	女	総数
腺 癌	19	18	37
扁平上皮癌	9	0	9
大細胞癌	2	1	3
小細胞癌	1	0	1
そ の 他	4	0	4
不 明	2	0	2
総 数	37	19	56

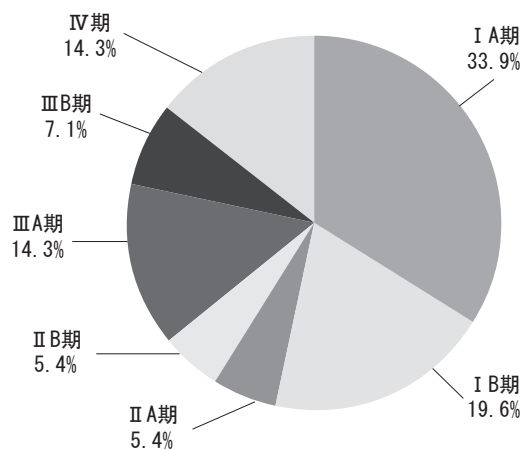
図2 組織別発見割合



(2) 臨床病期分類別発見数

	男	女	総数
I A期	8	11	19
I B期	7	4	11
II A期	3	0	3
II B期	3	0	3
III A期	7	1	8
III B期	3	1	4
IV 期	6	2	8
総 数	37	19	56

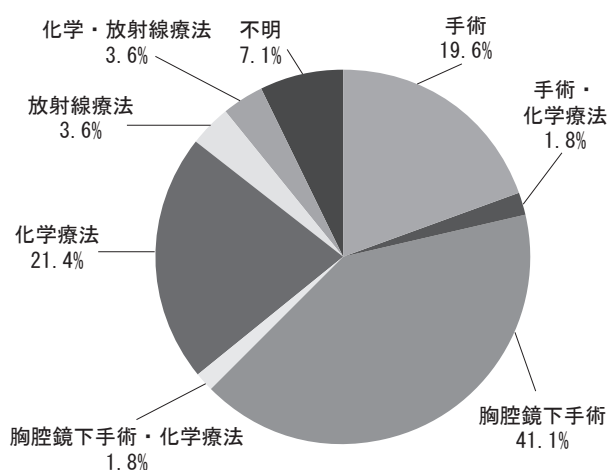
図3 臨床病期別発見割合



(3) 治療分類別発見数

	男	女	総数
手 術	8	3	11
手術・化学療法	1	0	1
胸腔鏡下手術	12	11	23
胸腔鏡下手術・化学療法	0	1	1
化 学 療 法	10	2	12
放 射 線 療 法	2	0	2
化学療法・放射線療法	1	1	2
不 明	3	1	4
総 数	37	19	56

図4 治療分類別発見割合



#### 4 前回未受診、前回受診別 追跡調査結果（胸部CT検診以外）

※ 平成28年度 地域保健・健康増進事業報告より

前回未受診：前年度受診していない者

前回受診：前年度も検診を受診している者

##### 1] 前回未受診、前回受診別臨床病期分類別発見数

	前回未受診	前回受診
I A期	8	11
I B期	7	4
II A期	1	2
II B期	1	2
III A期	2	6
III B期	0	4
IV 期	4	4
総 数	23	33

図5 前回未受診

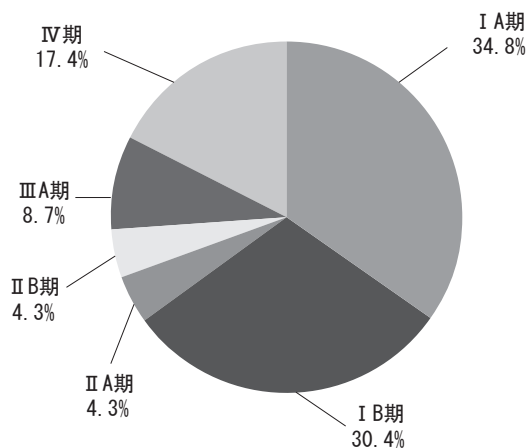
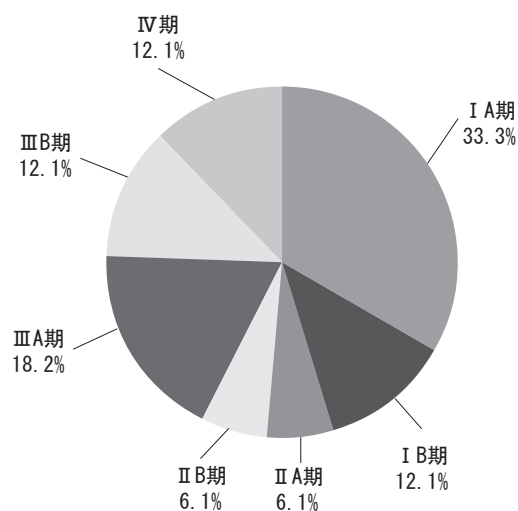


図6 前回受診



##### 2] 前回未受診、前回受診別発見率及びI期率

	受診者数	発見がん数 (%)	I 期 (%)	I 期外
前回未受診	19,355	23 (0.12)	15 (65.2)	8
前回受診	54,255	33 (0.06)	15 (45.5)	18

### 5 喫煙及び組織型

#### 1] 喫煙指数 (本数/日×年数)

喫煙指数	男	女	総数
0～	3	16	19
200～	3	1	4
400～	6	1	7
600～	5	0	5
800～	8	0	8
1000～	5	1	6
1200～	1	0	1
1400～	6	0	6
総数	37	19	56

図7 喫煙指数600未満

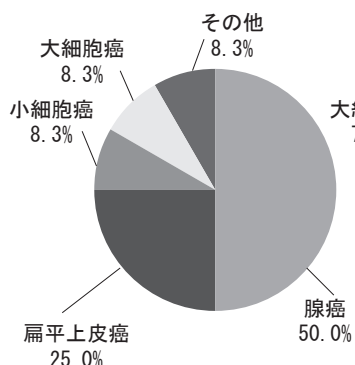
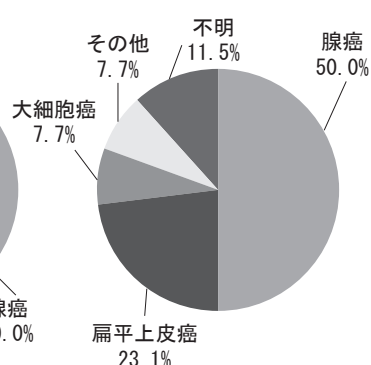


図8 喫煙指数600以上



#### 2] 喫煙指数及び組織型別発見数

喫煙指数	組織型	男	女	総数
600未満	腺癌	4	2	6
	扁平上皮癌	3	0	3
	小細胞癌	1	0	1
	大細胞癌	1	0	1
	その他	1	0	1
600以上	腺癌	13	0	13
	扁平上皮癌	6	0	6
	大細胞癌	1	1	2
	その他	2	0	2
	不明	3	0	3
総数		35	3	38

※喫煙歴なし 男2名、女16名

#### 3] 喫煙習慣及び組織型別発見数

喫煙習慣	組織型	男	女	総数
吸わない	腺癌	2	16	18
	不明	0	0	0
止めた	腺癌	12	1	13
	扁平上皮癌	6	0	6
	その他	2	0	2
	不明	1	0	1
吸う	腺癌	5	1	6
	扁平上皮癌	3	0	3
	小細胞癌	1	0	1
	大細胞癌	2	1	3
	その他	1	0	1
	不明	2	0	2
総数		37	19	56

図9 喫煙習慣及び組織型別発見割合 (吸わない)

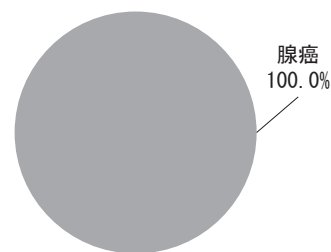


図10 喫煙習慣及び組織型別発見割合 (止めた)

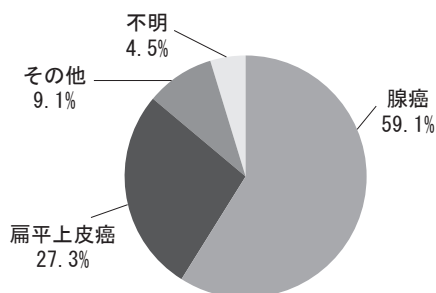
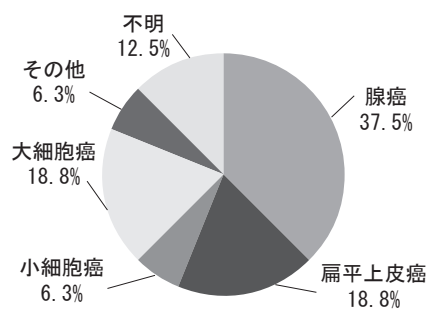


図11 喫煙習慣及び組織型別発見割合 (吸う)



## 6 まとめ

肺癌取扱い規約の「肺がん検診の手引き」より「肺がん検診における胸部X線検査の判定基準と指導区分」の中で「肺がん検診における肺癌確診患者数（検診発見肺癌）とは、E1およびE2判定となった要精検者の中から原発性肺癌と確診された患者数を意味する」、また「D判定者の中から肺癌が発見されたとしても、検診発見肺癌とは認めない」との記述があり、これに基づいて追跡調査を行っている。

平成28年度、肺がん検診受診者は73,610人で、確定肺がんは56人であり、がん発見率は昨年度の0.07%に対し今年度は0.08%であった。また、肺がん検診受診者数は前年度の73,561人に比べ受診者数がやや増加した。

前回未受診者と経年受診者を比較したところ、がん発見率は、前回未受診者の0.12%に対し経年受診者は0.06%であった。

I期肺がん割合は、前回未受診者では65.2%だったが、経年受診者では45.5%で、経年受診者の方がI期肺がんの割合が低かった。

肺がん検診の精検受診率について、胸部X線検診（喀痰細胞診併用を含む）では、前年度の87.0%に対し今年度は89.2%と高い結果になった。

当施設における肺がん検診の成績と、がん検診事業評価指標の許容値を比較すると、全て満たしていた。今後は更なる精度管理の向上をはかるために、精検受診率の目標値である90%以上を目指して各関係機関と連携していきたい。（付表1）

付表1 がん検診事業評価指標値との比較（対象は肺がんCTを除く肺がん検診とする）

	受診者数	要精検者数 (%)	精検受診率 (%)	発見がん数	がん発見率 (%)	陽性反応適中度 (%)
事業団 平成28年度	73,610	1,653 (2.2)	(89.2)	56	(0.08)	(3.4)
事業団 平成27年度	73,561	1,209 (1.6)	(87.0)	52	(0.07)	(4.3)
事業団 平成26年度	71,439	1,591 (2.2)	(82.8)	42	(0.06)	(2.6)
がん検診 事業評価 指標値	許容値	3.0以下	70.0以上		0.03以上	1.3以上
	目標値		90.0以上			

付表2 最終読影判定Dの発見肺がん

	前年度受診	組織分類	臨床病期分類	治療分類
80代・男性	なし	扁平上皮癌	IV	化学療法
80代・男性	あり	扁平上皮癌	ⅢB	化学療法
80代・男性	なし	不明	IV	治療拒否
50代・男性	なし	扁平上皮癌	I A	胸腔鏡下手術
70代・男性	なし	不明	I A	不明
60代・男性	あり	腺癌	ⅢA	胸腔鏡下手術
60代・男性	あり	扁平上皮癌	不明	不明

付表3 胸部検診（肺がん検診・結核検診）における至急精検結果

1] 至急対象内訳

	男	女	総数
肺がん疑い	35	18	53
結核疑い	3	0	3
その他疑い	10	6	16
総数	48	24	72

2] 精検結果内訳（肺がん疑い）

	男	女	総数
肺がん	21	5	26
転移性肺腫瘍	0	1	1
悪性腫瘍以外の肺腫瘍	2	0	2
活動性肺結核（疑）	2	0	2
不活動性肺結核（疑）	0	1	1
循環器疾患	1	2	3
その他の呼吸器疾患	8	8	16
不明	1	1	2
総数	35	18	53

3] 精検結果内訳（結核疑い）

	男	女	総数
その他の呼吸器疾患	3	0	3
総数	3	0	3

4] 精検結果内訳（その他疑い）

	男	女	総数
肺がん	1	0	1
活動性肺結核（疑）	1	0	1
肺結核治癒	0	1	1
循環器疾患	2	0	2
その他の呼吸器疾患	4	3	7
その他の異常	1	0	1
異常なし	0	1	1
不明	1	1	2
総数	10	6	16

付表4 胸部検診（肺がん検診）におけるアナログ・デジタル撮影者数比較

	アナログ撮影者数（%）	デジタル撮影者数（%）	総数
平成28年度	10,501（14.3）	63,109（85.7）	73,610
平成27年度	29,971（40.7）	43,590（59.3）	73,561
平成26年度	47,588（66.6）	23,850（33.4）	71,438

※ 喀痰細胞診のみ実施者除く

## 平成28年度 出張型住民健診における発見大腸がん追跡調査結果

平成30年1月31日現在

### 1 検診実施状況

	受診者数	要精検者数 (%)	精検受診者数 (%)
男	30,317	2,065 (6.8)	1,524 (73.8)
女	45,294	2,000 (4.4)	1,617 (80.9)
総数	75,611	4,065 (5.4)	3,141 (77.3)

### 2 精検結果内訳（発見がん追跡調査前の精検結果）

	早期 が ん (a)	進 行 が ん (b)	が ん 疑 い (c)	ポ リ ポ ー シ プ	ポ リ ポ ー シ ス	ク ロ ー ン 病	潰 瘍 性 大 腸 炎	憩 室	痔 疾 患	そ の 他 の 疾 患	異 常 認 め ず	結 果 未 把 握 *	精 検 未 受 診	総 数
男	47	24	23	810	7	0	4	132	118	39	291	29	541	2,065
女	30	22	9	594	5	0	9	156	214	59	492	27	383	2,000
総数	77	46	32	1,404	12	0	13	288	332	98	783	56	924	4,065

\* 結果未把握とは、受診は判明しているが診断名は不明の者

### 3 発見がん追跡調査結果

#### 1] 調査状況

	追跡調査 対象者数 (d=a+b+c)	調査除外内訳			調査数 (d-(e+f+g))	回収率 (%)
		詳細把握 (e) *	がん以外 (f) **	その他 (g) ***		
男	94	0	0	0	94	88 (93.6)
女	61	1	0	0	60	54 (90.0)
総数	155	1	0	0	154	142 (92.2)

\* 詳細把握：発見がん追跡調査前にかんがんと判明し、かつその詳細結果を把握できた者

\*\* がん以外：発見がん追跡調査前にかんがん以外の疾患であることを把握できた者

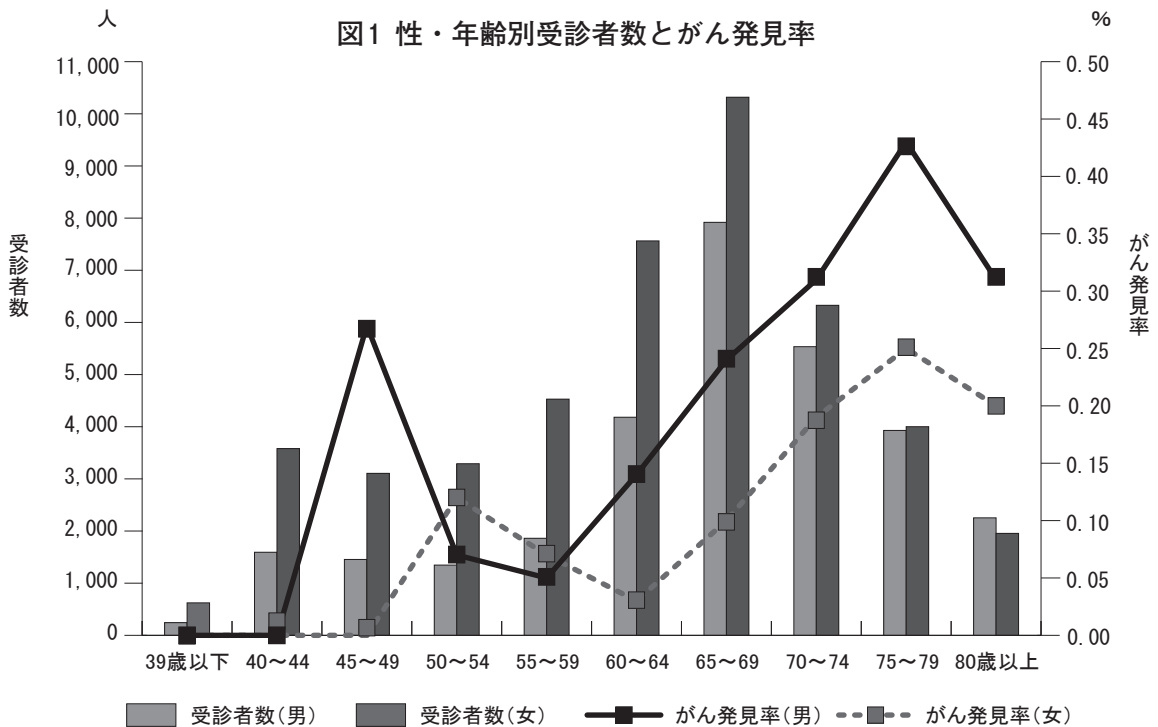
\*\*\* そ の 他：初回調査及び再調査実施後、新たに医療機関よりがん又はがん疑いと精検結果の報告を受け、今回の調査期間中に調査を実施出来なかった者やがんがんと判明しているものの精検医療機関が不明な者等

#### 2] 調査結果内訳

	発 見 が ん			その他の 疾患 (%)	経過 観察 (%)	未確定 (%)	異常なし (%)
	早期 (%)	進行 (%)	不明 (%)				
男	48 (51.1)	23 (24.5)	1 (1.0)	15 (16.0)	0 (0.0)	1 (1.0)	6 (6.4)
女	26 (43.3)	19 (31.7)	0 (0.0)	7 (11.7)	0 (0.0)	2 (3.3)	6 (10.0)
総数	74 (48.1)	42 (27.3)	1 (0.6)	22 (14.3)	0 (0.0)	3 (1.9)	12 (7.8)

3] 発見がん内訳

	受診者数	要精検者数 (%)	精検受診数 (%)	発見がん数 (%)	
男	39歳以下	243	3 (1.2)	3 (100.0)	0 (0.00)
	40～44歳	1,593	79 (5.0)	52 (65.8)	0 (0.00)
	45～49歳	1,455	47 (3.2)	34 (72.3)	4 (0.27)
	50～54歳	1,347	55 (4.1)	32 (58.2)	1 (0.07)
	55～59歳	1,861	88 (4.7)	53 (60.2)	1 (0.05)
	60～64歳	4,182	262 (6.3)	170 (64.9)	6 (0.14)
	65～69歳	7,919	550 (6.9)	411 (74.7)	19 (0.24)
	70～74歳	5,535	420 (7.6)	332 (79.0)	17 (0.31)
	75～79歳	3,929	340 (8.7)	265 (77.9)	17 (0.43)
	80歳以上	2,253	221 (9.8)	172 (77.8)	7 (0.31)
	計	30,317	2,065 (6.8)	1,524 (73.8)	72 (0.24)
女	39歳以下	623	30 (4.8)	18 (60.0)	0 (0.00)
	40～44歳	3,580	137 (3.8)	88 (64.2)	0 (0.00)
	45～49歳	3,106	110 (3.5)	77 (70.0)	0 (0.00)
	50～54歳	3,291	114 (3.5)	82 (71.9)	4 (0.12)
	55～59歳	4,529	153 (3.4)	126 (82.4)	3 (0.07)
	60～64歳	7,563	308 (4.1)	255 (82.8)	2 (0.03)
	65～69歳	10,318	407 (3.9)	341 (83.8)	10 (0.10)
	70～74歳	6,328	322 (5.1)	272 (84.5)	12 (0.19)
	75～79歳	4,001	252 (6.3)	220 (87.3)	10 (0.25)
	80歳以上	1,955	167 (8.5)	138 (82.6)	4 (0.20)
	計	45,294	2,000 (4.4)	1,617 (80.9)	45 (0.10)
総数	75,611	4,065 (5.4)	3,141 (77.3)	117 (0.15)	

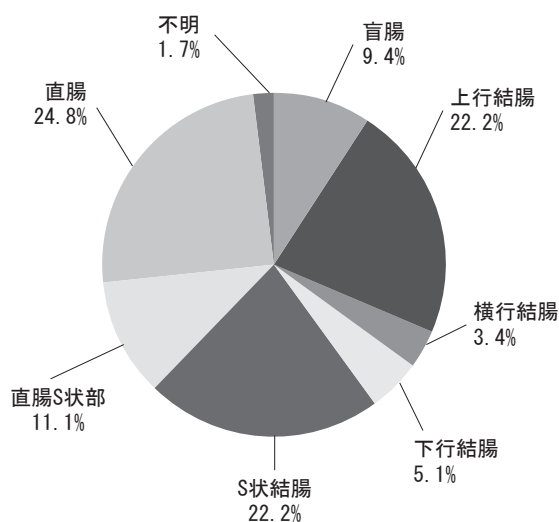




4] 占居部位別発見数

	男	女	総数
盲腸	7	4	11
上行結腸	13	13	26
横行結腸	2	2	4
下行結腸	2	4	6
S状結腸	18	8	26
直腸S状部	5	8	13
直腸	24	5	29
不明	1	1	2
総数	72	45	117

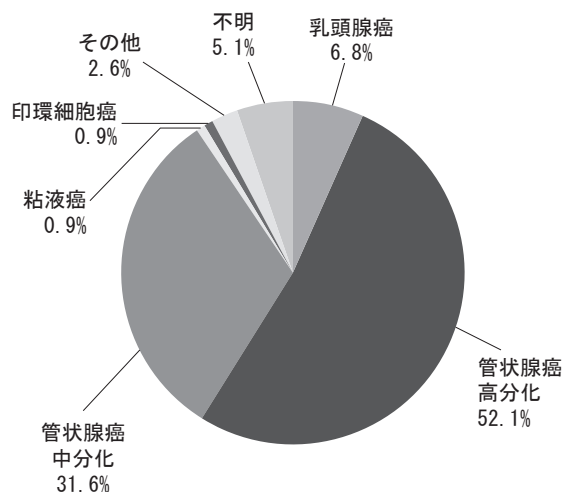
図2 占居部位別発見割合



5] 組織分類別発見数

	男	女	総数	
乳頭腺癌	5	3	8	
管状腺癌	高分化	41	20	61
	中分化	21	16	37
粘液癌	1	0	1	
印環細胞癌	0	1	1	
その他	1	2	3	
不明	3	3	6	
総数	72	45	117	

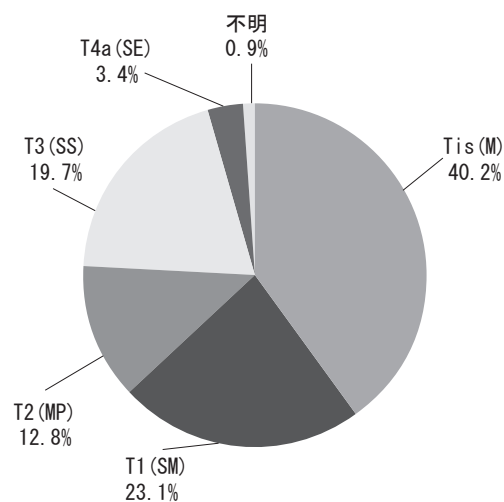
図3 組織分類別発見割合



6] 組織学的深達度別発見数

	男	女	総数
Tis(M)	29	18	47
T1(SM)	19	8	27
T2(MP)	7	8	15
T3(SS)	13	10	23
T4a(SE)	3	1	4
不明	1	0	1
総数	72	45	117

図4 組織学的深達度別発見割合

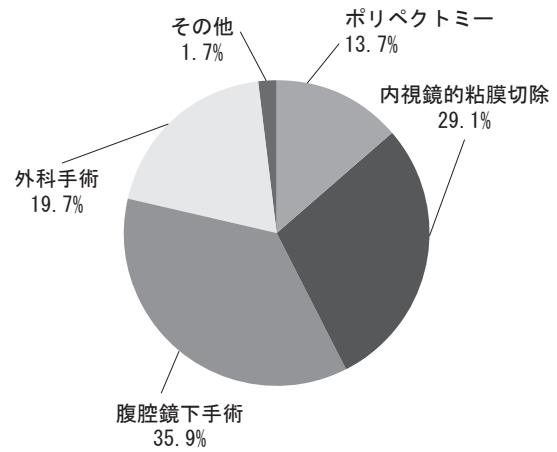


[早期がん割合 63.2%]

7] 手術術式別発見数

	早期	進行	不明	総数
ポリペクトミー	16	0	0	16
内視鏡的粘膜切除	34	0	0	34
腹腔鏡下手術	16	26	0	42
外科手術	7	16	0	23
その他	1	0	1	2
総数	74	42	1	117

図5 手術術式別発見割合



8] Stage分類別発見数

	男	女	総数
0	29	18	47
I	24	15	39
II	8	7	15
IIIa	9	1	10
IIIb	0	2	2
IV	2	2	4
総数	72	45	117

9] Dukes分類別発見数

	男	女	総数
A	53	33	86
B	8	7	15
C	9	3	12
D	2	2	4
総数	72	45	117

10] 初回、非初回別早期割合

		早期 (%)	進行	不明
初回	男	19 (65.5)	10	0
	女	8 (57.1)	6	0
	計	27 (62.8)	16	0
非初回	男	29 (67.4)	13	1
	女	18 (58.1)	13	0
	計	47 (63.5)	26	1

※平成28年度地域保健・健康増進事業報告より、

初回：当該年度を含まない過去3年間のうち、1回も大腸がん検診を受診していない者

非初回：当該年度を含まない過去3年間のうち、1回以上大腸がん検診を受診している者

#### 4 まとめ

平成28年度の発見大腸がん追跡調査の結果、男性72人、女性45人のがんが発見された。がん発見率は男性0.24%、女性0.10%であり、男性のがん発見率が高かった。また、男女とも加齢とともにがん発見率は高くなる傾向を示した（図1）。

発見大腸がんの占拠部位は直腸が最も多く（24.8%）、次いでS状結腸（22.2%）及び上行結腸（22.2%）の順であった。直腸S状部を含めたS状結腸から直腸までの割合は58.1%であり、例年よりも10%程度低かった。

組織型は管状腺癌が最も多く、高分化型（52.1%）、中分化型（31.6%）と合わせると83.7%を占めていた。また、今年度は粘液癌、印環細胞癌が1人ずつ発見された（図2、図3）。

発見大腸がんの組織深達度では、117人中、74人（63.2%）が早期がんとなるTis（M）、T1（SM）であった（図4）。

発見大腸がんの手術術式は（図5）、早期がんに対して内視鏡下で行われるポリペクトミー、ESDを含む内視鏡的粘膜切除が117人中50人（42.7%）に実施された。腹腔鏡下手術は、117人中42人（35.9%）に実施されており、外科手術（通常の開腹手術）23人（19.7%）と比べても多く実施されていた。

大腸がん検診の受診履歴別による発見大腸がんの早期がん割合は、初回受診者が62.8%であるのに対し、非初回受診者では63.5%であった。

「がん検診事業の評価に関する委員会」で示されたプロセス指標の許容値との比較を下記に示す。精度管理の指標となる要精検率及びがん発見率、精検受診率、陽性反応適中度は、全て許容値を満たしていた。

付表 がん検診事業評価指標値との比較

	受診者数	要精検者数 (%)	精検受診率 (%)	発見がん数 (%)	陽性反応適中度 (%)
事業団 平成28年度	75,611	4,065 (5.4)	(77.3)	117 (0.15)	(2.9)
事業団 平成27年度	76,773	4,316 (5.6)	(75.2)	117 (0.15)	(2.7)
事業団 平成26年度	73,128	4,200 (5.7)	(75.0)	133 (0.18)	(3.2)
がん検診 事業評価指標	許容値	7.0%以下	70.0%以上	0.13%以上	1.9%以上
	目標値		90.0%以上		

大腸がん検診で発見されるがんは早期がんが多く、内視鏡下での粘膜切除にて治療が済む割合が高い。大腸がん検診の受診率向上と精密検査未受診者への受診勧奨が、より多くの治療可能な大腸がんの早期発見・早期治療に繋がるものと考えている。

## 平成28年度 出張型住民健診における発見子宮頸がん追跡調査結果

平成30年1月31日現在

### 1 検診実施状況

#### 1] 検査方式別受診者数及び精検受診状況

	受診者数	要精検者数(%)	精検受診者数(%)
HPV併用	7,146	322 (4.5)	299 (92.9)
ASC-US時 HPV追加	31,741	623 (2.0)	547 (87.8)
細胞診のみ	1,438	26 (1.8)	26 (100.0)
総 数	40,325	971 (2.4)	872 (89.8)

#### 2] 平成28年度 市町別実施方式

① HPV併用	小山市・野木町・下野市・芳賀町
	足利市の30歳・35歳・40歳の希望者
	那須烏山市の30歳・35歳・40歳
	茂木町の30歳以上
② ASC-US時HPV追加	那須塩原市・那須町の30歳代
	①③以外
③ 細胞診のみ	宇都宮市

## 【HPV併用】

### 1 検診実施状況

#### 1] 受診者数及び精検受診状況

	受診者数	要精検者数 (%)	精検受診者数 (%)
総 数	7,146	322 (4.5)	299 (92.9)

#### 2] HPV-DNA検査結果内訳

	受診者数	HPV(-)	HPV(+)(%)
19歳以下	2	2	0 (0.0)
20～24歳	185	157	28 (15.1)
25～29歳	427	361	65 (15.2)
30～34歳	924	829	91 (9.8)
35～39歳	1,049	969	79 (7.5)
40～44歳	817	762	55 (6.7)
45～49歳	625	595	30 (4.8)
50～54歳	530	499	31 (5.8)
55～59歳	547	527	20 (3.7)
60～64歳	680	664	16 (2.4)
65～69歳	703	675	28 (4.0)
70～74歳	426	411	15 (3.5)
75～79歳	173	164	8 (4.6)
80歳以上	58	54	4 (6.9)
総 数	7,146	6,669	470 (6.6)

※ HPV検査未実施の7人は、判定不能2人と不同意者5人を含む

### 2 精検結果内訳

	上皮内がん	上皮内腺がん	微小浸潤扁平上皮がん	微小浸潤腺がん	扁平上皮がん	腺がん	その他がん	高度異形成	中等度異形成	軽度異形成	腺異形成	その他の疾患	異常を認めず	結果未把握	精検未受診	総数
	(a)	(b)	(c)	(d)	(e)	(f)	(g)	(h)			(i)					
総数	1	0	0	0	1	0	0	14	36	125	1	11	103	7	23	322

\* 結果未把握とは、受診は判明しているが診断名は不明の者

### 3 発見がん追跡調査結果

#### 1] 調査状況

	追跡調査 対象者数 (k=a+b+c+d+e+f+g+h+i)	調査除外内訳			調査数 (k-(l+m+n))	回収数(%)
		詳細把握 (l) *	がん以外 (m) **	その他 (n) ***		
総数	17	0	0	0	17	15 (88.2)

\* 詳細把握：発見がん追跡調査前にかんがんと判明し、かつその詳細結果を把握できた者

\*\* がん以外：発見がん追跡調査前にかんがんと判明した以外の疾患であることを把握できた者

\*\*\* その他：初回調査及び再調査実施後、新たに医療機関よりがん又はがん疑いと精検結果の報告を受け、今回の調査期間中に調査を実施出来なかった者やがんが判明しているものの精検医療機関が不明な者等

#### 2] 調査結果内訳

	発見がん			異形成 (%)	その他の疾患 (%)	異常なし (%)
	早期 (%)	進行 (%)	不明 (%)			
総数	3 (20.0)	1 (6.7)	0 (0.0)	11 (73.3)	0 (0.0)	0 (0.0)

#### 3] 細胞診結果及びHPV結果における発見がん数

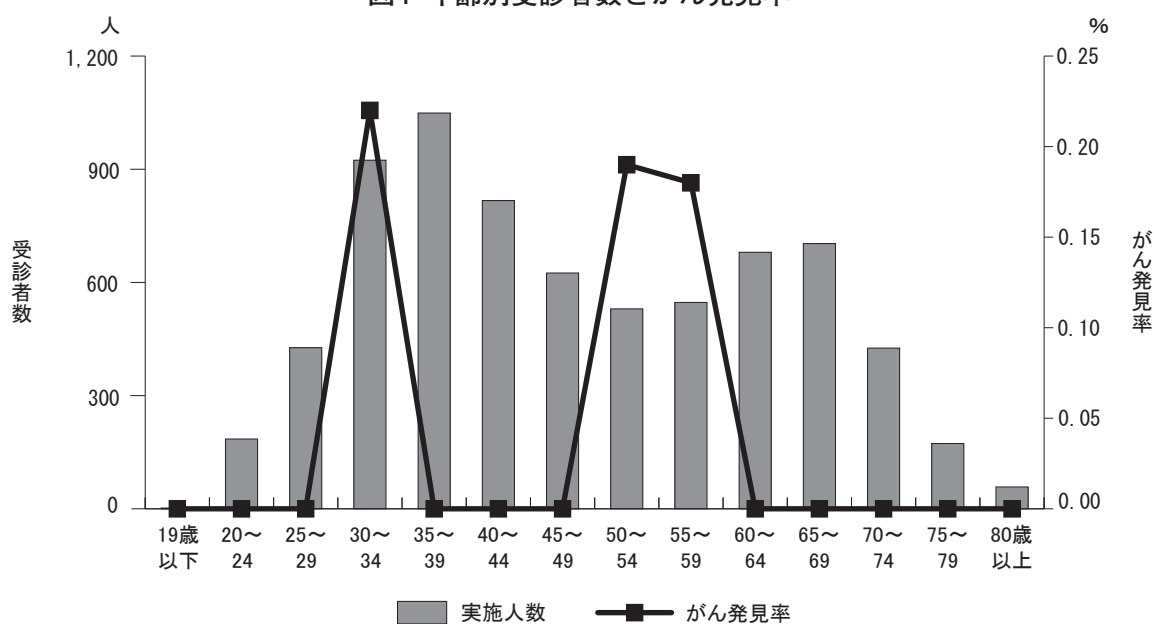
細胞診結果 (ベセスダシステム)	標本の適否		NILM	ASC-US	ASC-H	LSIL	HSIL	SCC	AGC	AIS	Adeno- carcinoma
	適正	不適正									
	7,144	2	6,792	158	3	119	54	7	11	0	0
HPV 検査 (-)	6,669	-	6,586	59	0	19	0	0	5	-	-
(+)	470	-	202	99	3	100	53	7	6	-	-
未実施	5	-	4	-	-	-	1	-	-	-	-
精検不要者数	232	-	173	59	0	0	0	0	0	-	-
要精検者数	322	-	29*	99	3	119	54	7	11	-	-
精検受診者数	299	-	26	98	3	107	47	7	11	-	-
発見がん数	4	-	0	2	0	0	1	1	0	-	-

\*2年連続で細胞診(NILM)・HPV(+)なので要精検となった

4] 発見がん内訳

	受診者数	要精検者数 (%)	精検受診者数 (%)	発見がん数 (%)
19歳以下	2	0 (0.0)	-	-
20～24歳	185	18 (9.7)	16 (88.9)	0 (0.00)
25～29歳	427	33 (7.7)	33 (100.0)	0 (0.00)
30～34歳	924	69 (7.5)	65 (94.2)	2 (0.22)
35～39歳	1,049	56 (5.3)	51 (91.1)	0 (0.00)
40～44歳	817	34 (4.2)	31 (91.2)	0 (0.00)
45～49歳	625	29 (4.6)	26 (89.7)	0 (0.00)
50～54歳	530	19 (3.6)	19 (100.0)	1 (0.19)
55～59歳	547	16 (2.9)	16 (100.0)	1 (0.18)
60～64歳	680	12 (1.8)	11 (91.7)	0 (0.00)
65～69歳	703	18 (2.6)	16 (88.9)	0 (0.00)
70～74歳	426	11 (2.6)	10 (90.9)	0 (0.00)
75～79歳	173	5 (2.9)	4 (80.0)	0 (0.00)
80歳以上	58	2 (3.4)	1 (50.0)	0 (0.00)
総数	7,146	322 (4.5)	299 (92.9)	4 (0.06)

図1 年齢別受診者数とがん発見率



## 5] 初回、非初回別実施状況

※ 平成28年度地域保健・健康増進事業報告より、

初 回：当該年度を含まない過去3年間のうち、1回も子宮頸がん検診を受診していない者

非初回：当該年度を含まない過去3年間のうち、1回以上子宮頸がん検診を受診している者

### (1) 実施状況

	受診者数	要精検者数(%)	精検受診率(%)	発見がん数(%)
初 回	4,501	186 (4.1)	(93.5)	3 (0.07)
非初回	2,645	136 (5.1)	(91.9)	1 (0.04)
総 数	7,146	322 (4.5)	(92.9)	4 (0.06)

### (2) 早期・進行割合

	発見がん数	早 期(%)	進 行(%)	不 明(%)
初 回	3	2 (66.7)	1 (33.3)	0 (0.0)
非初回	1	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
総 数	4	3 (75.0)	1 (25.0)	0 (0.0)

### (3) 年齢別実施状況

	受診者数(%)	要精検者数(%)	発見がん数(%)	陽性反応 適中度(%)	
39歳以下	初 回	1,837 (71.0)	110 (6.0)	1 (0.05)	(0.9)
	非初回	750 (29.0)	66 (8.8)	1 (0.13)	(1.5)
	総 数	2,587 (100.0)	176 (6.8)	2 (0.08)	(1.1)
40歳以上	初 回	2,664 (58.4)	76 (2.9)	2 (0.08)	(2.6)
	非初回	1,895 (41.6)	70 (3.7)	0 (0.00)	(0.0)
	総 数	4,559 (100.0)	146 (3.2)	2 (0.04)	(1.4)



## 6] 発見がん調査の詳細

### (1) 臨床進行期別発見数

臨床進行期		発見数 (%)
早期	0期*	3 (75.0)
	I A期	0 (0.0)
進行	II A期	1 (25.0)
総	数	4 (100.0)

\*子宮頸がん取扱い規約(2012.4)で0期は存在しないが、今回は0期を上皮内癌とした

### (2) TNM分類別発見数

#### 1) 早期がん

T	N	M	発見数 (%)
T0	N0	M0	1 (33.3)
不明	不明	不明	2 (66.7)
総	数		3 (100.0)

### (3) 治療分類別発見数

#### 1) 早期がん

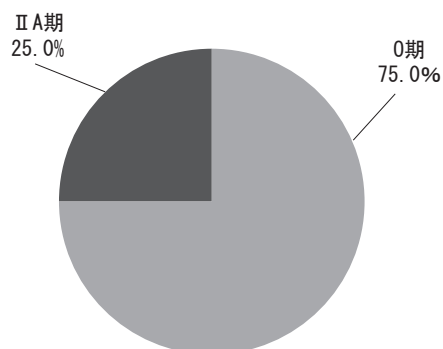
	発見数 (%)	
単純子宮全摘出術	1 (33.3)	
不明	2 (66.7)	
総	数	3 (100.0)

### (4) 組織分類別発見数

#### 1) 早期がん

上皮内癌が3人であった

図2 臨床進行期別発見割合



#### 2) 進行がん

T2、N0、M0が1人であった

#### 2) 進行がん

子宮頸部円錐切除術を1人実施した

※ 放射線療法、化学療法を実施

※ その他の治療は未実施

#### 2) 進行がん

扁平上皮癌が1人であった

## 【ASC-US時HPV追加】

### 1 検診実施状況

#### 1] 受診者数及び精検受診状況

	受診者数	要精検者数(%)	精検受診者数(%)
総数	31,741	623 (2.0)	547 (87.8)

#### 2] ASC-USと判定された受診者数及びHPV-DNA検査結果内訳

	受診者数	HPV(-)	HPV(+)(%)
19歳以下	0	-	-
20～24歳	6	2	4 (66.7)
25～29歳	13	7	6 (46.2)
30～34歳	23	14	9 (39.1)
35～39歳	38	24	14 (36.8)
40～44歳	41	29	12 (29.3)
45～49歳	40	33	7 (17.5)
50～54歳	32	28	4 (12.5)
55～59歳	24	19	5 (20.8)
60～64歳	33	27	6 (18.2)
65～69歳	25	20	5 (20.0)
70～74歳	8	6	2 (25.0)
75～79歳	5	3	2 (40.0)
80歳以上	2	0	2 (100.0)
総数	290	212	78 (26.9)

### 2 精検結果内訳

上 皮 内 が ん (a)	上 皮 内 腺 が ん (b)	微小浸潤扁平上皮がん (c)	微小浸潤腺がん (d)	扁平上皮がん (e)	腺がん (f)	その他がん (g)	高度異形成 (h)	中等度異形成 (i)	軽度異形成 (j)	腺異形成 (k)	その他の疾患 (l)	異常を認めず (m)	結果未把握 (n)	精検未受診 (o)	総数 (p)
5	0	0	1	2	2	3	45	68	238	0	9	168	6	76	623

\* その他疾患から追跡対象者2人を含む

\*\* 結果未把握とは、受診は判明しているが診断名は不明の者

### 3 発見がん追跡調査結果

#### 1] 調査状況

	追跡調査 対象者数 (j=a+b+c+d+e +f+g+h+i)*	調査除外内訳			調査数 (j-(k+l+m))	回収率 (%)
		詳細把握 (k) **	がん以外 (l) ***	その他 (m) ****		
総数	60	0	0	0	60	56 (93.3)

\* その他疾患より追跡対象者2人含む

\*\* 詳細把握：発見がん追跡調査前に、がんと判明しかつその詳細結果を把握できた者

\*\*\* がん以外：発見がん追跡調査前に、がん以外の疾患であることを把握できた者

\*\*\*\* その他：初回調査及び再調査実施後、新たに医療機関よりがん又はがん疑いと精検結果の報告を受け今回の調査期間中に調査を実施出来なかった者やがんと判明しているものの精検医療機関が不明な者等

#### 2] 調査結果内訳

	発見がん			異形成 (%)	その他 の疾患 (%)	異常 なし (%)
	早期 (%)	進行 (%)	不明 (%)			
総数	13 (23.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	38 (67.9)	3 (5.4)	2 (3.6)

※ その他疾患に子宮体癌2人含む

#### 3] 細胞診結果及びHPV結果における発見がん数

細胞診結果 (ベセスダシステム)	標本の適否		NILM	ASC-US	ASC-H	LSIL	HSIL	SCC	AGC	AIS	Adeno- carcinoma
	適正	不適正									
	31,739	2	30,904	290	12	334	160	4	33	0	2
HPV 検査											
(-)	213	-	1*	212	-	-	-	-	-	-	-
(+)	78	-	-	78	-	-	-	-	-	-	-
未実施	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
精検不要者数	212	-	-	212**	-	-	-	-	-	-	-
要精検者数	623	-	-	78	12	334	160	4	33	-	2
精検受診者数	547	-	-	70	11	293	135	4	32	-	2
発見がん数	13	-	0	0	0	1	7	3	1***	0	1***

\* HPV検査希望者1人

\*\* 細胞診はASC-USでHPVが(-)なので精検不要

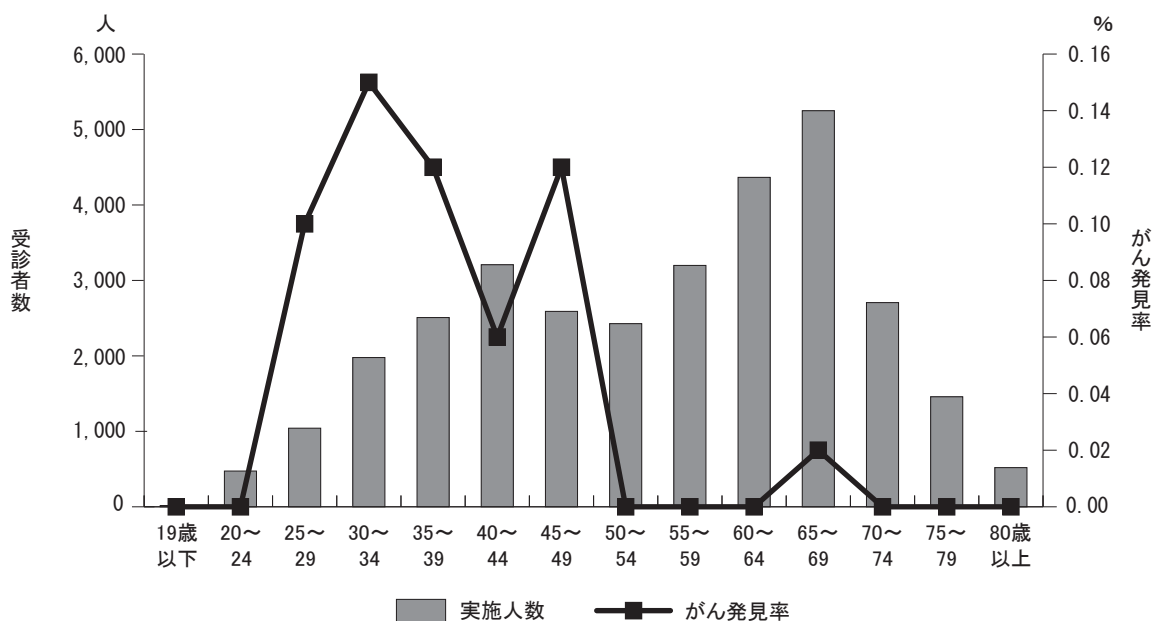
\*\*\* 腺異型と腺癌疑いからそれぞれ1人ずつ子宮体癌が発見された

4] 発見がん内訳

	受診者数	要精検者数 (%)	精検受診者数 (%)	発見がん数 (%)
19歳以下	17	1 (5.9)	0 (0.0)	— —
20～24歳	474	30 (6.3)	22 (73.3)	0 (0.00)
25～29歳	1,042	59 (5.7)	54 (91.5)	1 (0.10)
30～34歳	1,978	83 (4.2)	72 (86.7)	3 (0.15)
35～39歳	2,508	86 (3.4)	76 (88.4)	3 (0.12)
40～44歳	3,208	96 (3.0)	84 (87.5)	2 (0.06)
45～49歳	2,590	66 (2.5)	58 (87.9)	3 (0.12)
50～54歳	2,427	44 (1.8)	39 (88.6)	0 (0.00)
55～59歳	3,199	33 (1.0)	27 (81.8)	0 (0.00)
60～64歳	4,366	45 (1.0)	42 (93.3)	0 (0.00)
65～69歳	5,249	47 (0.9)	43 (91.5)	1 (0.02)
70～74歳	2,706	14 (0.5)	12 (85.7)	0 (0.00)
75～79歳	1,458	13 (0.9)	12 (92.3)	0 (0.00)
80歳以上	519	6 (1.2)	6 (100.0)	0 (0.00)
総 数	31,741	623 (2.0)	547 (87.8)	13 (0.04)

※ 子宮頸がんの確定がん13名以外に65～69歳と70～74歳で子宮体癌が2人発見された

図1 年齢別受診者数とがん発見率



## 5] 初回、非初回別実施状況

※平成28年度地域保健・健康増進事業報告より、

初 回：当該年度を含まない過去3年間のうち、1回も子宮頸がん検診を受診していない者

非初回：当該年度を含まない過去3年間のうち、1回以上子宮頸がん検診を受診している者

### (1) 実施状況

	受診者数	要精検者数(%)	精検受診率(%)	発見がん数(%)
初 回	7,505	287 (3.8)	(84.3)	10 (0.13)
非初回	24,236	336 (1.4)	(90.8)	3 (0.01)
総 数	31,741	623 (2.0)	(87.8)	13 (0.04)

### (2) 早期・進行割合

	発見がん数	早 期(%)	進 行(%)	不 明(%)
初 回	10	10 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
非初回	3	3 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
総 数	13	13 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)

### (3) 年齢別実施状況

	受診者数(%)	要精検者数(%)	発見がん数(%)	陽性反応 適中度(%)
39歳以下	初 回	3,132 (52.0)	161 (5.1)	5 (0.16) (3.1)
	非初回	2,887 (48.0)	98 (3.4)	2 (0.07) (2.0)
	総 数	6,019 (100.0)	259 (4.3)	7 (0.12) (2.7)
40歳以上	初 回	4,373 (17.0)	126 (2.9)	5 (0.11) (4.0)
	非初回	21,349 (83.0)	238 (1.1)	1 (0.00) (0.4)
	総 数	25,722 (100.0)	364 (1.4)	6 (0.02) (1.6)

6] 発見がん調査の詳細

(1) 臨床進行期別発見数

臨床進行期		発見数 (%)
早 期	0期*	7 (53.8)
	I A期	5 (38.5)
不 明		1 (7.7)
総 数		13 (100.0)

\*子宮頸がん取扱い規約(2012.4)で0期は存在しないが、今回は0期を上皮内癌とした

(2) TNM分類別発見数

1) 早期がん

T	N	M	発見数 (%)
Tis	NX	M0	1 (7.7)
Tis	NO	MO	2 (15.4)
T1	MX	MO	1 (7.7)
T1	NO	MO	3 (23.1)
不明	不明	不明	6 (46.2)
総 数			13 (100.0)

(3) 治療分類別発見数

1) 早期がん

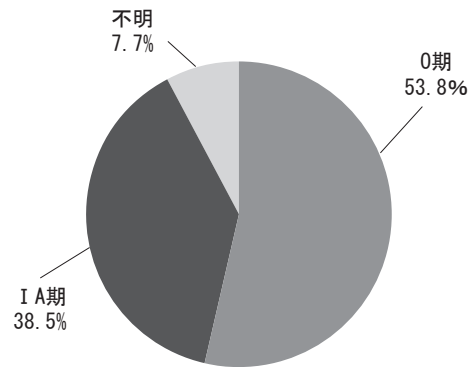
	発見数 (%)
子宮頸部円錐切除術	3 (23.1)
単純子宮全摘出術	3 (23.1)
準広汎子宮全摘出術	1 (7.7)
広汎子宮全摘出術	2 (15.4)
不 明	4 (30.8)
総 数	13 (100.0)

(4) 組織分類別発見数

1) 早期がん

	発見数 (%)
上 皮 内 癌	7 (53.8)
微小浸潤扁平上皮癌	3 (23.1)
微小浸潤腺癌	3 (23.1)
総 数	13 (100.0)

図2 臨床進行期別発見割合



2) 進行がん

0人であった

2) 進行がん

0人であった

2) 進行がん

0人であった

## 【細胞診のみ】

### 1 検診実施状況

	受診者数	要精検者数(%)	精検受診者数(%)
総数	1,438	26 (1.8)	26 (100.0)

### 2 精検結果内訳

	上皮内がん(a)	上皮内腺がん(b)	微小浸潤扁平上皮がん(c)	微小浸潤腺がん(d)	扁平上皮がん(e)	腺がん(f)	その他のがん(g)	高度異形成(h)	中等度異形成(i)	軽度異形成(j)	腺異形成(k)	その他の疾患患者(l)	結果未把握(m)	精検未受診(n)	総数(o)	
総数	0	0	0	0	0	0	1	1	5	4	0	0	13	2	0	26

\*結果未把握とは、受診は判明しているが診断名は不明の者

### 3 発見がん追跡調査結果

#### 1] 調査状況

	追跡調査対象者数 (j=a+b+c+d+e+f+g+h+i)	調査除外内訳			調査数 (j-(k+l+m))	回収率(%)
		詳細把握(k) *	がん以外(l) **	その他(m) ***		
総数	2	0	0	0	2	2 (100.0)

\* 詳細把握：発見がん追跡調査前に、がんと判明しかつその詳細結果を把握できた者

\*\* がん以外：発見がん追跡調査前に、がん以外の疾患であることを把握できた者

\*\*\* その他：初回調査及び再調査実施後、新たに医療機関よりがん又はがん疑いと精検結果の報告を受け今回の調査期間中に調査を実施出来なかった者やがんと判明しているものの精検医療機関が不明な者等

#### 2] 調査結果内訳

	発見がん			異形成(%)	その他の疾患(%)	異常なし(%)
	早期(%)	進行(%)	不明(%)			
総数	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)

※ その他の疾患に子宮体癌1人を含む

### 3] 細胞診結果及び発見がん数

細胞診結果 (ベセスダシステム)	標本の適否		NILM	ASC-US	ASC-H	LSIL	HSIL	SCC	AGC	AIS	Adeno- carcinoma
	適正	不適正									
	1,438	0	1,412	9	1	9	5	0	2	0	0
要精検者数	26	-	-	9	1	9	5	-	2	-	-
精検受診者数	26	-	-	9*	1	9	5	-	2	-	-
発見がん数	0	-	0	0	0	0	0	-	0**	-	-

\* 精検受診者9人のうち2人は精検の結果不明であった

\*\* AGCより子宮体癌が1人発見された

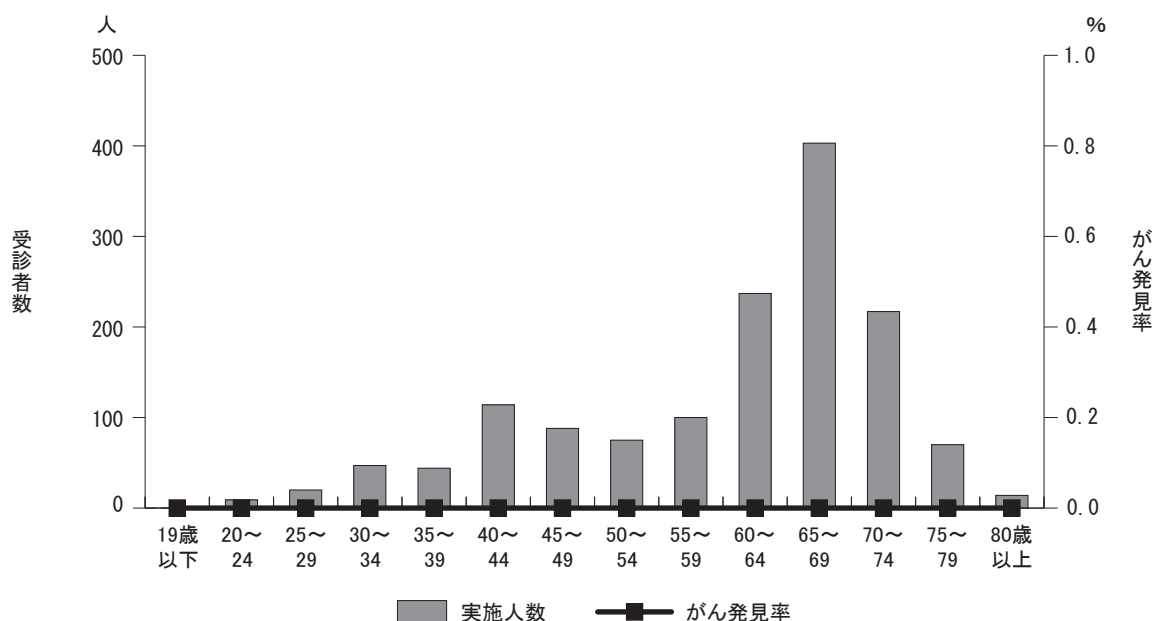
### 4] 発見がん内訳

	受診者数	要精検者数 (%)	精検受診者数 (%)	発見がん数 (%)
19歳以下	0	0 (0.0)	-	-
20～24歳	9	0 (0.0)	-	-
25～29歳	20	3 (15.0)	3 (100.0)	0 (0.00)
30～34歳	47	1 (2.1)	1 (100.0)	0 (0.00)
35～39歳	44	2 (4.5)	2 (100.0)	0 (0.00)
40～44歳	114	4 (3.5)	4 (100.0)	0 (0.00)
45～49歳	88	5 (5.7)	5 (100.0)	0 (0.00)
50～54歳	75	2 (2.7)	2 (100.0)	0 (0.00)
55～59歳	100	2 (2.0)	2 (100.0)	0 (0.00)
60～64歳	237	1 (0.4)	1 (100.0)	0 (0.00)
65～69歳	403	2 (0.5)	2 (100.0)	0 (0.00)
70～74歳	217	1 (0.5)	1 (100.0)	0 (0.00)
75～79歳	70	3 (4.3)	3 (100.0)	0 (0.00)
80歳以上	14	0 (0.0)	0	-
総数	1,438	26 (100.0)	26 (100.0)	0 (0.00)

※ 75～79歳で子宮体癌が1人発見された



図1 年齢別受診者数とがん発見率



### 5] 初回、非初回別実施状況

※ 平成28年度地域保健・健康増進事業報告より、

初 回：当該年度を含まない過去3年間のうち、1回も子宮頸がん検診を受診していない者

非初回：当該年度を含まない過去3年間のうち、1回以上子宮頸がん検診を受診している者

#### (1) 実施状況

	受診者数	要精検者数 (%)	精検受診率 (%)	発見がん数 (%)
初 回	583	13 (2.2)	(100.0)	0 (0.00)
非初回	855	13 (1.5)	(100.0)	0 (0.00)
総 数	1,438	26 (1.8)	(100.0)	0 (0.00)

#### (2) 早期・進行割合

	発見がん数	早 期 (%)	進 行 (%)	不 明 (%)
初 回	0	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
非初回	0	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
総 数	0	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)

(3) 年齢別実施状況

	受診者数(%)	要精検者数(%)	発見がん数(%)	陽性反応 適中度(%)	
39歳以下	初 回	96 (80.0)	5 (5.2)	0 (0.00)	(0.0)
	非初回	24 (20.0)	1 (4.2)	0 (0.00)	(0.0)
	総 数	120 (100.0)	6 (5.0)	0 (0.00)	(0.0)
40歳以上	初 回	487 (36.9)	8 (1.6)	0 (0.00)	(0.0)
	非初回	831 (63.1)	12 (1.4)	0 (0.00)	(0.0)
	総 数	1,318 (100.0)	20 (1.5)	0 (0.00)	(0.0)

4 まとめ

当施設での細胞診検査は、すべて液状検体法で行い、平成28年度の子宮頸がん検診方式は1検診実施状況2] 平成28年度市町別実施方式の通りである。

HPV併用方式では、受診者数は7,146人（判定不能2人とHPV不同意5人を含む）で、前年度の受診者11,446人に比べて4,300人減少した。減少した要因として、日本産婦人科医会がん対策委員会のリコメンデーションに準拠し、細胞診 [NILM] HPV [陰性] の判定の場合は3年後の受診となるため、検診間隔が延長されたことが考えられる。年齢構成は39歳以下の受診者数(率)が2,587人(36.2%)、40歳以上の受診者数(率)は4,559人(63.8%)で39歳以下の受診者数の割合が低かった。HPV-DNA検査結果の内訳では、39歳以下の陽性者数(率)は263人(10.2%)、40歳以上の陽性者数(率)207人(4.5%)と39歳以下に高い傾向を示した。要精検者数(率)は322人(4.5%)と前年度375人(3.3%)より高かった。精検受診者数(率)は299人(92.9%)で、精検結果内訳者数(率)は軽度異形成125人(1.75%)、中等度異形成36人(0.50%)、高度異形成14人(0.20%)、腺異形成1人(0.01%)であった。追跡調査対象者は17人で、子宮頸がん発見者数(率)は4人(0.06%)であった。初回、非初回別がん発見者数(率)は、初回受診者のがん発見者数(率)は3人(0.07%)、非初回受診者数(率)は1人(0.04)であった。年齢別がん発見者数(率)では、39歳以下のがん発見者数(率)は2人(0.08%)に対し、40歳以上のがん発見者数(率)は2人(0.04%)であった。

ASC-US時HPV追加方式では、受診者数は31,741人（判定不能2人を含む）で、前年度の受診者数31,062人に比べて679人増加した。年齢構成は39歳以下の受診者数(率)が6,019人(19.0%)、40歳以上の受診者数(率)は25,722人(81.0%)で39歳以下の受診者数の割合が低かった。細胞診 [ASC-US] と判定された290人のうちHPVが [陰性] の判定であった人数(率)212人(73.1%)が精検不要となり、全体で要精検者数(率)は623人(2.0%)となった。精検受診者数(率)は547人(87.8%)で、精検結果内訳者数(率)は、軽度異形成238人(0.75%)、中等度異形成68人(0.21%)、高度異形成45人(0.14%)であった。追跡調査対象者は60人で、子宮頸がん発見者数(率)は13人(0.04%)であった。初回、非初回別がん発見者数(率)では、初回受診者のがん発見者数(率)は10人(0.13%)、非初回受診者のがん発見者数(率)は3人(0.01%)であった。年齢別実施状況では39歳以下の初回受診者からのがん発見者数(率)は5人(0.16%)であったのに対し、40歳以上の初回受診者からのがん発見者数(率)は5人(0.11%)であった。

細胞診のみの方式における受診者数は1,438人で、前年度の受診者1,597人に比べて159人減少した。年齢構成は39歳以下の受診者数(率)が120人(8.3%)、40歳以上の受診者数(率)は1,318人(91.7%)で39歳以下の受診者数の割合が低かった。要精検者数(率)は26人

(1.8%)、精検受診者数(率)は26人(100.0%)で、精検結果内訳者数(率)は軽度異形成4人(0.28%)、中等度異形成5人(0.35)、高度異形成1人(0.07%)であった。追跡調査対象者は2人で、子宮頸がん発見者数(率)は0人(0.00%)であった。

3方式の精検結果内訳者数(率)で、異形成の割合を比較すると、HPV併用方式は176人(2.46%)、ASC-US時HPV追加方式は351人(1.11%)、細胞診のみの方式人は10人(0.70%)であった。HPV併用方式は他の方式より、異形成の割合が高かった。

この集計は精密検査結果連絡票で、高度異形成(上皮内腺癌、腺癌を含む)以上と診断された受診者を追跡対象者とした。「2012年改訂第3版頸がん取扱い規約」では上皮内がん0期は除外されたが、今回は、平成27年度と同様に早期がんとして集計したが、今後、上皮内がんをがんに集計しないことで、がん発見率低下が予想される。

当施設における子宮頸がん検診の成績と事業評価指標値との比較は、付表の通りである。追跡調査の結果、がん発見率はHPV併用方式で許容値を上回っていたが、ASC-US時HPV追加方式と細胞診のみの方式は、許容値を満たしていなかった。要精検率及び陽性反応適中度は、HPV併用方式、ASC-US時HPV追加方式、細胞診のみの方式の3方式ともに、許容値を満たしていなかった。精検受診率は、3方式とも許容値を満たしていた。また、HPV併用方式と細胞診のみの方式は、目標値も満たしたが、ASC-US時HPV追加方式は、目標値は満たしていなかった。確定がん率は、HPV併用方式のみ許容値を満たしたが、他の2方式は許容値を満たしていなかった。ベセスダシステム導入に伴い、ASC-US判定が増えたことにより、要精検率と陽性反応適中度等は許容値を満たしていない値になっているのが現状である。今後は、ベセスダシステムに準拠した新たながん検診事業評価指標値が必要と考える。

付表 がん検診事業評価指標との比較

		受診者数	要精検者数 (%)	精検 受診率 (%)	発見がん数 (%)	陽性反応 適中度 (%)
	HPV併用	7,146	322 (4.5)	92.9	4 (0.06)	(1.2)
事業団 平成28年度	ASC-US時 HPV追加	31,741	623 (2.0)	87.8	13 (0.04)	(2.1)
	細胞診のみ	1,438	26 (1.8)	100.0	0 (0.00)	(0.0)
	HPV併用	11,446	375 (3.3)	90.1	10 (0.09)	(2.7)
事業団 平成27年度	ASC-US時 HPV追加	31,062	519 (1.7)	89.4	12 (0.04)	(2.3)
	細胞診のみ	1,597	16 (1.0)	87.5	1 (0.06)	(6.3)
	HPV併用	5,493	321 (5.8)	89.1	6 (0.11)	(1.9)
事業団 平成26年度	ASC-US時 HPV追加	31,030	603 (1.9)	86.9	11 (0.04)	(1.8)
	細胞診のみ	1,482	18 (1.2)	94.4	0 (0.00)	(0.0)
	がん検診事業 評価指標	許容値 目標値	1.4%以下	70.0%以上 90.0%以上	0.05%以上	4.0%以上

## 平成28年度 出張型住民健診における発見乳がん追跡調査結果

平成30年1月31日現在

本調査票では、マンモグラフィをMG、超音波検査をUS、視触診検査をCBEと表記する。

### 1 検診実施状況

#### 1] 検診方式別実施状況

	受診者数	要精検者数 (%)	精検受診者数 (%)
MG + US	42,495	1,932 (4.5)	1,739 (90.0)
MG + CBE	1,096	72 (6.6)	65 (90.3)
US	6,599	268 (4.1)	231 (86.2)
CBE	117	9 (7.7)	6 (66.7)
MG	1	0 (0.0)	- (-)
総 数	50,308	2,281 (4.5)	2,041 (89.5)

#### 2] 年齢別実施状況

	39歳以下 (%)	40～49歳 (%)	50～59歳 (%)	60～69歳 (%)	70歳以上 (%)
MG + US	918 (2.2)	8,820 (20.8)	8,626 (20.3)	15,618 (36.8)	8,513 (20.0)
MG + CBE	4 (0.4)	188 (17.2)	164 (15.0)	480 (43.8)	260 (23.7)
US	6,300 (95.5)	147 (2.2)	37 (0.6)	58 (0.9)	57 (0.9)
CBE	109 (93.2)	8 (6.8)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
MG	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)
総 数	7,331 (14.6)	9,163 (18.2)	8,827 (17.5)	16,157 (32.1)	8,830 (17.6)

### 2 精検結果内訳

	早 期 が ん (a)	進 行 が ん (b)	が ん 疑 い (c)	線 維 腺 腫	乳 腺 症	囊 胞	乳 管 内 乳 頭 腫	そ の 他 の 疾 患	異 常 な し	結 果 未 把 握 *	精 検 未 受 診	総 数
総 数	80	19	56	320	459	322	61	61	651	12	240	2,281

\*結果未把握とは、受診は判明しているが診断名は不明の者

### 3 発見がん追跡調査結果

#### 1] 調査状況

	追跡調査 対象者数 (d=a+b+c)	調査除外内訳			追加調査 (h)****	調査数 (d-(e+f+g)+h)	回収数(%)
		詳細把握 (e)*	がん以外 (f)**	その他 (g)***			
総数	155	0	0	2	1	154	146 (94.8)

\* 詳細把握：発見がん追跡調査前に、がんと判明しかつその詳細結果を把握できた者

\*\* がん以外：発見がん追跡調査前に、がん以外の疾患であることを把握できた者

\*\*\* その他：初回調査及び再調査実施後、新たに医療機関よりがん又はがん疑いと精検結果の報告を受け、今回の調査期間中に調査を実施出来なかった者やがんと判明したが精検医療機関が不明な者等

\*\*\*\* 追加調査：乳腺症だが生検、細胞診を行なっているため調査対象とした

#### 2] 調査結果内訳（調査回収数及び調査前に発見がんの詳細を把握していた数を合せた詳細）

	発見がん			良性(%)	経過観察 (%)	異常なし (%)	未確定 (%)	追跡不能 (%)
	早期(%)	進行(%)	不明(%)					
総数	83 (53.9)	22 (14.3)	4 (2.6)	14 (9.1)	14 (9.1)	5 (3.2)	3 (1.9)	9 (5.8)

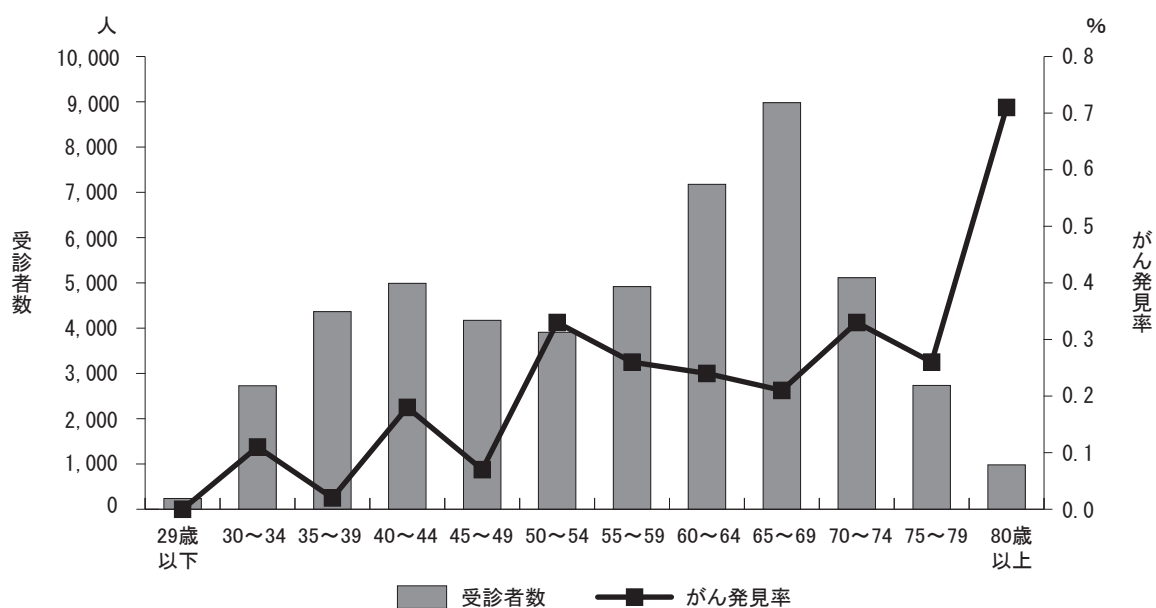
#### 3] 検診方式別調査結果内訳

	発見がん			良性	経過 観察	異常 なし	未確定	追跡 不能
	早期	進行	不明					
MG+US	80	19	4	13	12	5	3	9
MG+CBE	1	1	0	0	0	0	0	0
US	2	2	0	1	2	0	0	0

#### 4] 発見がん内訳

	受診者数	要精検者数(%)	精検受診者数(%)	発見がん数(%)
29歳以下	238	16 (6.7)	13 (81.3)	0 (0.00)
30～34歳	2,728	124 (4.5)	112 (90.3)	3 (0.11)
35～39歳	4,365	230 (5.3)	194 (84.3)	1 (0.02)
40～44歳	4,990	456 (9.1)	396 (86.8)	9 (0.18)
45～49歳	4,173	274 (6.6)	248 (90.5)	3 (0.07)
50～54歳	3,909	200 (5.1)	181 (90.5)	13 (0.33)
55～59歳	4,918	199 (4.0)	173 (86.9)	13 (0.26)
60～64歳	7,177	266 (3.7)	241 (90.6)	17 (0.24)
65～69歳	8,980	249 (2.8)	232 (93.2)	19 (0.21)
70～74歳	5,114	159 (3.1)	149 (93.7)	17 (0.33)
75～79歳	2,735	71 (2.6)	70 (98.6)	7 (0.26)
80歳以上	981	37 (3.8)	32 (86.5)	7 (0.71)
総数	50,308	2,281 (4.5)	2,041 (89.5)	109 (0.22)

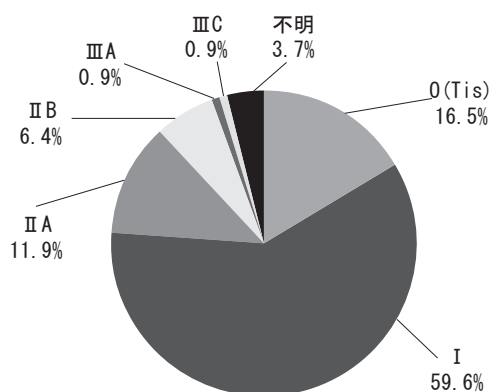
図1 年齢別受診者数とがん発見率



5] 臨床病期 (Stage) 分類別発見数

臨床病期分類	発見数	(%)
早期		
0 (Tis)	18 (16.5)	(76.1)
I	65 (59.6)	
進行		
II A	13 (11.9)	(20.1)
II B	7 (6.4)	
III A	1 (0.9)	
III C	1 (0.9)	
不明	4 (3.7)	
総数	109	

図2 臨床病期 (Stage) 分類別発見割合

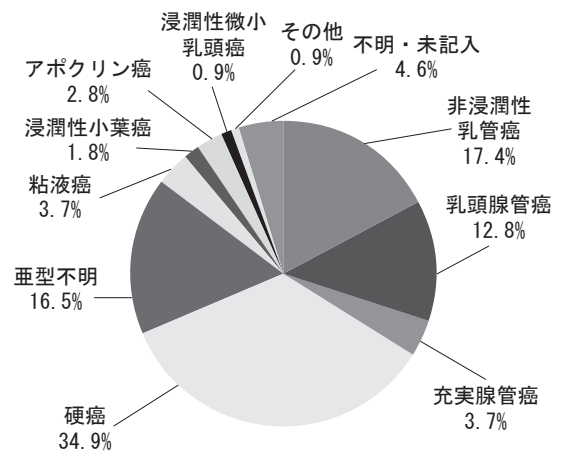


※両側乳がん1人あり、Stageの高い方に計上

6] 組織学的分類別発見数

組織学的分類	発見数 (%)
非浸潤性乳管癌	19 (17.4)
乳頭腺管癌	14 (12.8)
浸潤性充実腺管癌	4 (3.7)
硬癌	38 (34.9)
下垂型不明	18 (16.5)
粘液癌	4 (3.7)
浸潤性小葉癌	2 (1.8)
アポクリン癌	3 (2.8)
特殊型浸潤性微小乳頭癌	1 (0.9)
その他	1 (0.9)
不明・未記入	5 (4.6)
総数	109

図3 組織学的分類別発見割合



※両側乳がん1人あり、DCIS/硬癌であるため、硬癌で計上

付表 両側乳がん1人の詳細

	検診結果	検診受診歴 (精検結果)	占拠 部位	病期 分類	組織学的 分類	手術方法
50代	MG	異常なし	右	0 (Tis)	DCIS	乳房切除術
	US	要精検	左	I	硬癌	乳房部分切除術



#### 4 検診方式別実施状況

1] MG+US併用方式 (MGはML O1方向撮影、クーポン券利用の40歳代は原則2方向撮影)

##### (1) 年齢別検診実施状況

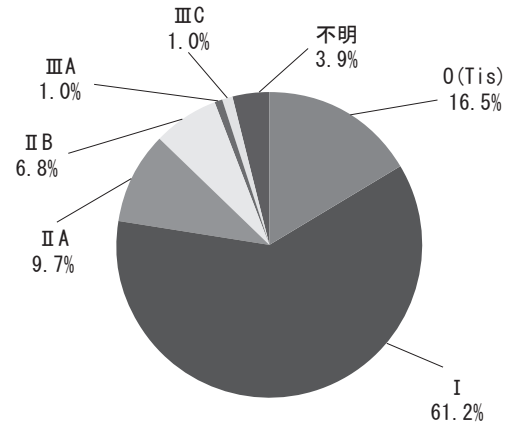
	受診者数	要精検者数 (%)	検査別要精検者数 (%)		精検受診者数 (%)	発見がん数 (%)
			MG	US		
29歳以下	3	1 (33.3)	1 (33.3)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.00)
30～34歳	139	10 (7.2)	6 (4.3)	4 (2.9)	10 (100.0)	0 (0.00)
35～39歳	776	95 (12.2)	66 (8.5)	34 (4.4)	81 (85.3)	0 (0.00)
40～44歳	4,763	439 (9.2)	265 (5.6)	202 (4.2)	380 (86.6)	8 (0.17)
45～49歳	4,057	265 (6.5)	151 (3.7)	133 (3.3)	240 (90.6)	3 (0.07)
50～54歳	3,820	190 (5.0)	116 (3.0)	94 (2.5)	171 (90.0)	13 (0.34)
55～59歳	4,806	191 (4.0)	114 (2.4)	90 (1.9)	166 (86.9)	13 (0.27)
60～64歳	6,985	257 (3.7)	143 (2.0)	127 (1.8)	234 (91.1)	17 (0.24)
65～69歳	8,633	234 (2.7)	138 (1.6)	119 (1.4)	219 (93.6)	18 (0.21)
70～74歳	4,909	147 (3.0)	88 (1.8)	70 (1.4)	140 (95.2)	17 (0.35)
75～79歳	2,651	67 (2.5)	35 (1.3)	38 (1.4)	66 (98.5)	7 (0.26)
80歳以上	953	36 (3.8)	26 (2.7)	15 (1.6)	31 (86.1)	7 (0.73)
総数	42,495	1,932 (4.5)	1,149 (2.7)	926 (2.2)	1,739 (90.0)	103 (0.24)

(2) 臨床病期 (Stage) 分類別発見数

臨床病期分類		発見数	数 (%)
早期	0 (Tis)	17 (16.5)	(77.7)
	I	63 (61.2)	
進行	II A	10 (9.7)	(18.4)
	II B	7 (6.8)	
	III A	1 (1.0)	
	III C	1 (1.0)	
不明	4 (3.9)		
総数		103	

※両側乳がん2人あり、Stageの高い方に計上

図4 臨床病期 (Stage) 分類別発見割合

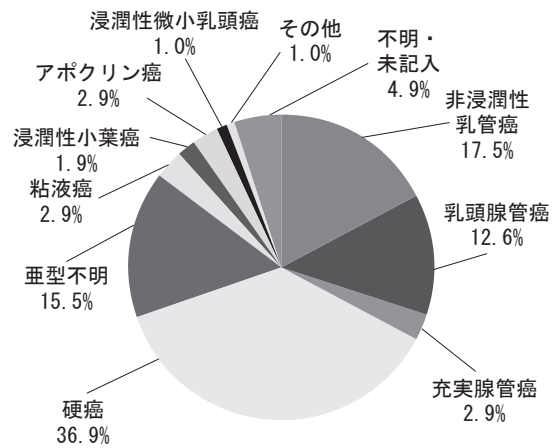


(3) 組織学的分類別発見数

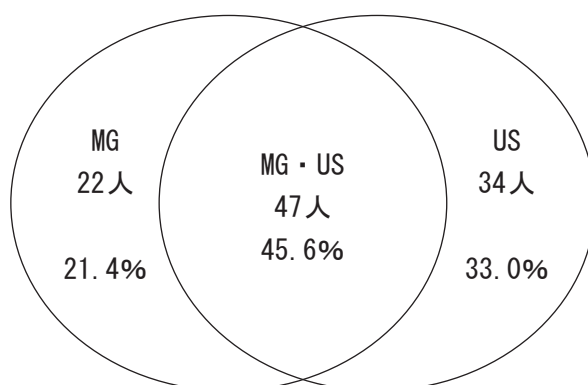
組織学的分類	発見数	数 (%)
非浸潤性乳管癌	18 (17.5)	
乳頭腺管癌	13 (12.6)	
浸潤性充実腺管癌	3 (2.9)	
浸潤性乳管癌硬癌	38 (36.9)	
下垂型不明	16 (15.5)	
粘液癌	3 (2.9)	
浸潤性小葉癌	2 (1.9)	
特殊型アポクリン癌	3 (2.9)	
浸潤性微小乳頭癌	1 (1.0)	
その他	1 (1.0)	
不明・未記入	5 (4.9)	
総数	103	

※両側乳がん1人あり、DCIS/硬癌であるため、硬癌で計上

図5 組織学的分類別発見割合



(4) 検査方法別発見がん内訳



(5) 手術方法

切除範囲	乳房部切除術	乳房切除術	皮膚温存乳房切除術 (SSM)	不明
総数	72	27	1	3

※両側乳がんが2人いるため、のべ総数103

(6) 検査方法別発見率及び陽性反応適中度

	実施人数	要精検者数	発見がん数 (%)	陽性反応適中度 (%)
MG	42,495	1,149	69 (0.16)	(6.0)
US		926	81 (0.19)	(8.7)

(7) 初回・非初回別実施状況

※ 平成28年度地域保健・健康増進事業報告より、

初 回：当該年度を含まない過去3年間のうち、1回も乳がん検診を受診していない者

非初回：当該年度を含まない過去3年間のうち、1回以上乳がん検診を受診している者

1) 検査方法別要精検率内訳

	初回 (17.2%)				非初回 (82.8%)			
	受診者数	要精検者数 (%)	検査方法別要精検率 (%)		受診者数	要精検者数 (%)	検査方法別要精検率 (%)	
			MG	US			MG	US
29歳以下	3	1 (33.3)	(33.3)	(0.0)	0	- (-)	(-)	(-)
30～34歳	84	9 (10.7)	(7.1)	(3.6)	55	1 (1.8)	(0.0)	(1.8)
35～39歳	295	40 (13.6)	(8.1)	(6.1)	481	55 (11.4)	(8.7)	(3.3)
40～44歳	1,448	214 (14.8)	(9.5)	(6.6)	3,315	225 (6.8)	(3.8)	(3.2)
45～49歳	911	117 (12.8)	(7.9)	(6.6)	3,146	148 (4.7)	(2.5)	(2.3)
50～54歳	752	100 (13.3)	(9.7)	(5.7)	3,068	90 (2.9)	(1.4)	(1.7)
55～59歳	839	91 (10.8)	(7.9)	(4.3)	3,967	100 (2.5)	(1.2)	(1.4)
60～64歳	1,075	117 (10.9)	(7.9)	(3.8)	5,910	140 (2.4)	(1.0)	(1.5)
65～69歳	1,001	97 (9.7)	(6.5)	(4.6)	7,632	137 (1.8)	(1.0)	(1.0)
70～74歳	545	56 (10.3)	(7.5)	(3.3)	4,364	91 (2.1)	(1.1)	(1.2)
75～79歳	256	22 (8.6)	(5.9)	(4.7)	2,395	45 (1.9)	(0.8)	(1.1)
80歳以上	117	12 (10.3)	(8.5)	(2.6)	836	24 (2.9)	(1.9)	(1.4)
総 数	7,326	876 (12.0)	(8.1)	(5.1)	35,169	1,056 (3.0)	(1.6)	(1.6)

2) 初回、非初回別病期分類内訳

病期分類	初回：受診者数 / 発見率 (%) *		非初回：受診者数 / 発見率 (%) *		総数：受診者数 / 発見率 (%) *	
	7,326 / (0.51)		35,169 / (0.19)		42,495 / (0.24)	
	発見数 (%)		発見数 (%)		発見数 (%)	
早期	0	4 (10.8)	13 (19.7)	17 (16.5)		
	I	23 (62.2)	40 (60.6)	63 (61.2)	(73.0)	(80.3)
進行	II A	5 (13.5)	5 (7.6)	10 (9.7)		
	II B	1 (2.7)	6 (9.1)	7 (6.8)		
	III A	1 (2.7)	0 (0.0)	1 (1.0)	(21.6)	(16.7)
	III C	1 (2.7)	0 (0.0)	1 (1.0)		
不 明	2 (5.4)	2 (3.0)	4 (3.9)			
総 数	37	66	103			

\*発見率は未記入、不明のものもすべて含む

2] MG+CBE併用方式 (MGはMLO1方向撮影、40歳代は全員2方向撮影)

(1) 年齢別検診実施状況

	受診者数	要精検者数 (%)	検査方法別要精検者数 (%)		精検受診者数 (%)	発見がん数 (%)
			MG	CBE		
29歳以下	0	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)
30～34歳	0	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)
35～39歳	4	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	- (-)	- (-)
40～44歳	108	12 (11.1)	9 (8.3)	4 (3.7)	12 (100.0)	1 (0.93)
45～49歳	80	7 (8.8)	7 (8.8)	0 (0.0)	7 (100.0)	0 (0.00)
50～54歳	74	8 (10.8)	7 (9.5)	1 (1.4)	8 (100.0)	0 (0.00)
55～59歳	90	8 (8.9)	7 (7.8)	1 (1.1)	7 (87.5)	0 (0.00)
60～64歳	169	8 (4.7)	8 (4.7)	0 (0.0)	7 (87.5)	0 (0.00)
65～69歳	311	13 (4.2)	10 (3.2)	3 (1.0)	11 (84.6)	1 (0.32)
70～74歳	178	12 (6.7)	9 (5.1)	3 (1.7)	9 (75.0)	0 (0.00)
75～79歳	69	3 (4.3)	1 (1.4)	2 (2.9)	3 (100.0)	0 (0.00)
80歳以上	13	1 (7.7)	1 (7.7)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.00)
総数	1,096	72 (6.6)	59 (5.4)	14 (1.3)	65 (90.3)	2 (0.18)

(2) 臨床病期、組織学的分類及び手術方法

年齢	検診結果	検診受診歴 (精検結果)	自覚 症状	占拠 部位	病期 分類	組織型分類	手術方法
	上段CBE 下段MG						
40代	要精検 要精検	なし	しこり (左)	左	II A	浸潤性乳管癌 (亜型不明)	乳房切除術
60代	所見なし 要精検	なし	なし	左	I	粘液癌	乳房部分切除術

(3) 検査方法別発見率及び陽性反応適中度

	受診者数	要精検者数	発見がん数 (%)	陽性反応適中度 (%)
MG	1,096	59	2 (0.18)	(3.4)
CBE		14	1 (0.09)	(7.1)

(4) 初回、非初回別実施状況

※ 平成28年度地域保健・健康増進事業報告より、

初 回：当該年度を含まない過去3年間のうち、1回も乳がん検診を受診していない者

非初回：当該年度を含まない過去3年間のうち、1回以上乳がん検診を受診している者

1) 検査方法別要精検率内訳

	初回 (48.1%)					非初回 (51.9%)				
	受診者数	要精検者数 (%)	検査方法別要精検率 (%)		受診者数	要精検者数 (%)	検査方法別要精検率 (%)			
			MG	CBE			MG	CBE		
29歳以下	0	- (-)	(-)	(-)	0	- (-)	(-)	(-)		
30～34歳	0	- (-)	(-)	(-)	0	- (-)	(-)	(-)		
35～39歳	4	0 (0.0)	(0.0)	(0.0)	0	- (-)	(-)	(-)		
40～44歳	81	10 (12.3)	(9.9)	(3.7)	27	2 (7.4)	(3.7)	(3.7)		
45～49歳	54	5 (9.3)	(9.3)	(0.0)	26	2 (7.7)	(7.7)	(0.0)		
50～54歳	49	7 (14.3)	(12.2)	(2.0)	25	1 (4.0)	(4.0)	(0.0)		
55～59歳	45	4 (8.9)	(8.9)	(0.0)	45	4 (8.9)	(6.7)	(2.2)		
60～64歳	83	6 (7.2)	(7.2)	(0.0)	86	2 (2.3)	(2.3)	(0.0)		
65～69歳	130	10 (7.7)	(6.2)	(1.5)	181	3 (1.7)	(1.1)	(0.6)		
70～74歳	63	6 (9.5)	(7.9)	(1.6)	115	6 (5.2)	(3.5)	(1.7)		
75～79歳	15	1 (6.7)	(6.7)	(0.0)	54	2 (3.7)	(0.0)	(3.7)		
80歳以上	3	1 (33.3)	(33.3)	(0.0)	10	0 (0.0)	(0.0)	(0.0)		
総 数	527	50 (9.5)	(8.3)	(1.3)	569	22 (3.9)	(2.6)	(1.2)		

2) 病期分類別内訳

病期分類	初回：受診者数 / 発見率 (%)		非初回：受診者数 / 発見率 (%)		総数：受診者数 / 発見率 (%)	
	527/(0.38)		569/(0.00)		1,096/(0.18)	
	発見数 (%)		発見数 (%)		発見数 (%)	
早期 I	1 (50.0)	0 (0.0)	1 (50.0)			
進行 II A	1 (50.0)	0 (0.0)	1 (50.0)			
総 数	2	0	2			

### 3] US法

※ 主に30代のUS単独検診と、40歳以上で当施設が定める禁忌事項に当てはまりMG撮影が出来なかった受診者

#### (1) 年齢別検診実施状況

	受診者数	要精検者数 (%)	精検受診者数 (%)	発見がん数 (%)
29歳以下	229	15 (6.6)	12 (80.0)	0 (0.00)
30～34歳	2,536	109 (4.3)	99 (90.8)	3 (0.12)
35～39歳	3,535	131 (3.7)	110 (84.0)	1 (0.03)
40～44歳	111	5 (4.5)	4 (80.0)	0 (0.00)
45～49歳	36	2 (5.6)	1 (50.0)	0 (0.00)
50～54歳	15	2 (13.3)	2 (100.0)	0 (0.00)
55～59歳	22	0 (0.0)	- (-)	- (-)
60～64歳	23	1 (4.3)	0 (0.0)	- (-)
65～69歳	35	2 (5.7)	2 (100.0)	0 (0.00)
70～74歳	27	0 (0.0)	- (-)	- (-)
75～79歳	15	1 (6.7)	1 (100.0)	0 (0.00)
80歳以上	15	0 (0.0)	- (-)	- (-)
総数	6,599	268 (4.1)	231 (86.2)	4 (0.06)

#### (2) 臨床病期、組織学的分類及び手術方法

年齢	検診受診歴	自覚症状	占拠部位	病期分類	組織学的分類	手術方法
30代	なし	なし	右	I	充実腺管癌	乳房部分切除
30代	なし	なし	右	0 (Tis)	DCIS	不明
30代	なし	左右しこり	左	II A	浸潤性乳管癌 (亜型不明)	乳房部分切除
30代	なし	左しこり	左	II A	乳頭腺管癌	乳房切除術

#### (3) 検査方法別発見率及び陽性反応適中度

	受診者数	要精検者数	発見がん数 (%)	陽性反応適中度 (%)
U S	6,599	268	4 (0.06)	(1.5)

#### (4) 40歳未満に限定した陽性反応適中度

	受診者数	要精検者数	発見がん数 (%)	陽性反応適中度 (%)
U S	6,300	255	4 (0.06)	(1.6)

4] CBE法

※ U市の30代と、40歳以上で当施設が定める禁忌事項に当てはまりMG撮影が出来なかった受診者

(1) 年齢別検診実施状況

	受診者数	要精検者数 (%)	精検受診者数 (%)	発見がん数 (%)
29歳以下	6	0 (0.0)	- (-)	- (-)
30～34歳	53	5 (9.4)	3 (60.0)	0 (0.00)
35～39歳	50	4 (8.0)	3 (75.0)	0 (0.00)
40～44歳	8	0 (0.0)	- (-)	- (-)
45～49歳	0	- (-)	- (-)	- (-)
50～54歳	0	- (-)	- (-)	- (-)
55～59歳	0	- (-)	- (-)	- (-)
60～64歳	0	- (-)	- (-)	- (-)
65～69歳	0	- (-)	- (-)	- (-)
70～74歳	0	- (-)	- (-)	- (-)
75～79歳	0	- (-)	- (-)	- (-)
80歳以上	0	- (-)	- (-)	- (-)
総 数	117	9 (7.7)	6 (66.7)	0 (0.00)

5] MG法

※ MG+US検診対象であるが、検診時MGのみ受診した者

(1) 年齢別検診実施状況

	受診者数	要精検者数 (%)	精検受診者数 (%)	発見がん数 (%)
65～69歳	1	0 (0.0)	- (-)	- (-)



## 5 まとめ

平成28年度の受診者数は50,308人であり、平成27年度48,631人から引き続き増加し、当施設で乳がん検診を開始して以降、初めて50,000人を超えた。

追跡調査票の回収率は94.8%と平成27年度の97.7%から減少した。発見がん数は109人であった。要精検率4.5%、精検受診率89.5%、陽性反応適中度4.8%であり、がん検診事業評価指数の許容値を満たしていたが、がん発見率は0.22%で許容値を満たさなかった。陽性反応適中度は保たれていることから、前年度と比較し、精検受診率と追跡調査票の回収率が低かったことが影響した可能性が考えられる。

MG + US 併用方式の受診者数は42,495人で、当施設では乳がん検診の84.5%を占めている。発見がん数は103人であった。要精検率4.5%、がん発見率0.24%、陽性反応適中度5.3%であり、がん検診事業評価指数の許容値を満たしていた。MGとUS両方で指摘し発見されたがんは47人45.6%と前年度53.5%よりも低くなり、USのみで発見されたがんが34人33.0%で、MGのみで発見されたがんは22人21.4%であった。H29年度より分離併用総合判定方式となるため、発見率は維持しつつ要精検率が下がることが期待される。

MG + CBE 併用方式の受診者数は1,096人であり、がん発見数は2人でがん発見率0.18%であった。

US 単独方式の受診者数は6,599人であり、がん発見数は4人でがん発見率0.06%であった。CBE 単独方式、MG 単独方式では、前年度同様、乳がんの発見はなかった。

付表 がん検診事業評価指標との比較

	受診者数	要精検者数 (%)	精検 受診率 (%)	発見がん数 (%)	陽性反応 適中度 (%)
事業団 平成28年度	50,308	2,281 (4.5)	(89.5)	109 (0.22)	(4.8)
事業団 平成27年度	48,631	2,856 (5.9)	(90.4)	111 (0.23)	(3.9)
事業団 平成26年度	45,436	3,029 (6.7)	(88.6)	136 (0.30)	(4.5)
がん検診 事業評価指数	許容値	11.0%以下	80.0%以上	0.23%以上	2.5%以上
	目標値		90.0%以上		

※ 乳がん検診の要精検率、がん発見率、陽性反応適中度は参考値とする

## 平成28年度 出張型住民健診における発見前立腺がん追跡調査結果

平成30年1月31日現在

### 1 検診実施状況

	受診者数	要精検者数 (%)	精検受診者数 (%)
総 数	25,993	1,933 (7.4)	1,391 (72.0)

※ 年齢階層別PSA基準値 (64歳以下：3.1ng/ml以上、65歳～69歳：3.6ng/ml以上、70歳以上：4.1ng/ml以上)

### 2 精検結果内訳

	早期がん (a)	進行がん (b)	がん疑い (c)	前立腺肥大症	前立腺炎	その他の疾患	異常を認めず	結果未把握*	精検未受診	総数
総 数	75	11	445	391	37	17	352	63	542	1,933

\*結果未把握とは、受診は判明しているが診断名は不明の者

### 3 発見がん追跡調査結果

#### 1] 調査状況

	追跡調査対象者数 (d=a+b+c)	調 査 除 外 内 訳			調 査 数 (d-(e+f+g))	回収数 (%)
		詳細把握 (e) *	がん以外 (f) **	その他 (g) ***		
総 数	531	0	0	18	513	489 (95.3)

\* 詳細把握：発見がん追跡調査前にかんと判明し、かつその詳細結果を把握できた者

\*\* がん以外：発見がん追跡調査前にかん以外の疾患であることを把握できた者

\*\*\* そ の 他：初回調査及び再調査実施後、新たに医療機関よりがん又はがん疑いと精検結果の報告を受け、今回の調査期間中に調査を実施出来なかった者やがんと判明しているものの精検医療機関が不明な者等

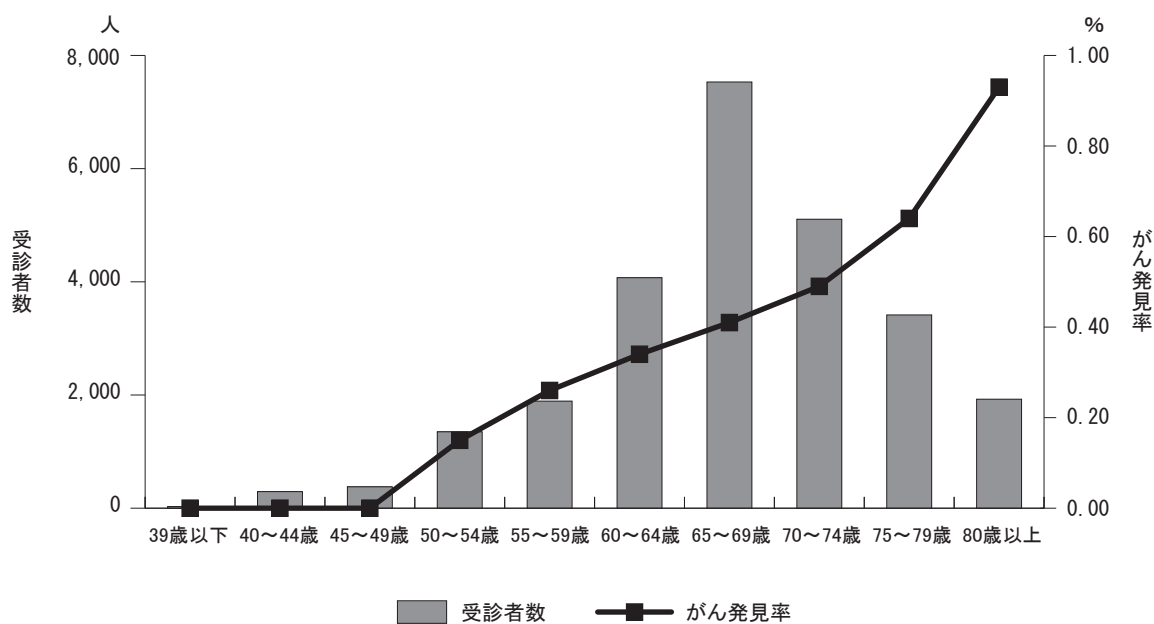
#### 2] 調査結果内訳

	発見がん			その他の疾患 (%)	異常を認めず (%)	経過観察 (%)	未確定 (%)
	早期 (%)	進行 (%)	不明 (%)				
総 数	91 (18.6)	22 (4.5)	4 (0.8)	53 (10.8)	31 (6.3)	279 (57.1)	9 (1.8)

### 3] 発見がん内訳

	受診者数	要精検者数 (%)	精検受診者数 (%)	発見がん数 (%)
39歳以下	29	0 (0.0)	-	-
40～44歳	293	6 (2.0)	5 (83.3)	0
45～49歳	378	6 (1.6)	4 (66.7)	0
50～54歳	1,350	30 (2.2)	17 (56.7)	2 (0.15)
55～59歳	1,892	88 (4.7)	63 (71.6)	5 (0.26)
60～64歳	4,073	324 (8.0)	216 (66.7)	14 (0.34)
65～69歳	7,531	574 (7.6)	400 (69.7)	31 (0.41)
70～74歳	5,106	352 (6.9)	259 (73.6)	25 (0.49)
75～79歳	3,415	317 (9.3)	244 (77.0)	22 (0.64)
80歳以上	1,926	236 (12.3)	183 (77.5)	18 (0.93)
総 数	25,993	1,933 (7.4)	1,391 (72.0)	117 (0.45)

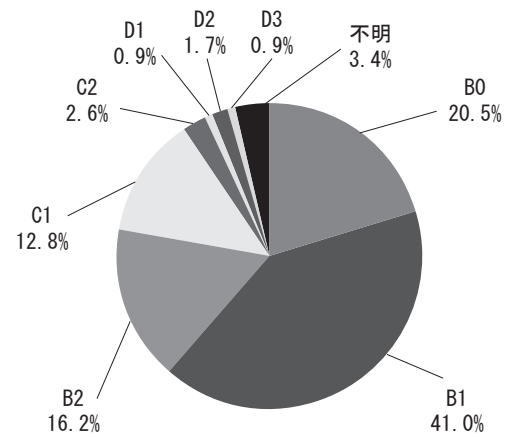
図1 年齢別受診者数とがん発見率



4] 臨床病期 (ABCD分類) 別発見数

ABCD分類	発見数 (%)
B0	24 (20.5)
B1	48 (41.0)
B2	19 (16.2)
C1	15 (12.8)
C2	3 (2.6)
D1	1 (0.9)
D2	2 (1.7)
D3	1 (0.9)
不 明	4 (3.4)
総 数	117 (100.0)

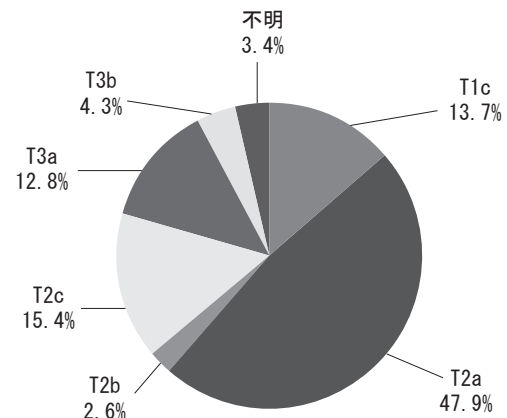
図2 臨床病期 (ABCD分類) 別発見割合



5] 臨床病期 (T分類) 別発見数

T分類	発見数 (%)
T1c	16 (13.7)
T2a	56 (47.9)
T2b	3 (2.6)
T2c	18 (15.4)
T3a	15 (12.8)
T3b	5 (4.3)
不 明	4 (3.4)
総 数	117 (100.0)

図3 臨床病期 (T分類) 別発見割合



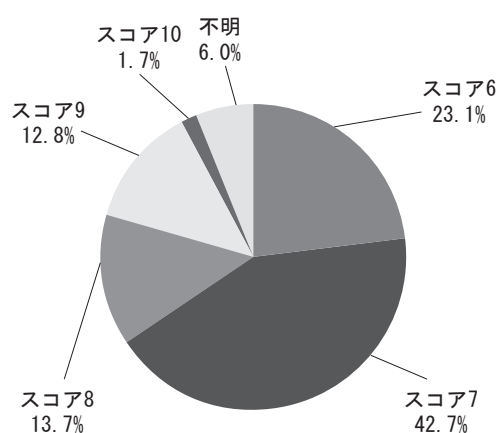
(1) T分類別による所属リンパ節への転移 (N) 及び遠隔転移 (M) の内訳

臨床病期 分類	発見数	所属リンパ節転移 (N)				遠隔転移 (M)			
		N0	N1	NX	不明	M0	M1	MX	不明
T1c	16	16	0	0	0	16	0	0	0
T2a	56	56	0	0	0	56	0	0	0
T2b	3	3	0	0	0	3	0	0	0
T2c	18	18	0	0	0	17	1	0	0
T3a	15	13	1	1	0	12	2	1	0
T3b	5	4	1	0	0	5	0	0	0
不 明	4	0	0	0	4	0	0	0	4
総 計	117	110	2	1	4	109	3	1	4

### 6] Gleasonスコア別発見数

Gleasonスコア	発見数 (%)
6	27 (23.1)
7	50 (42.7)
8	16 (13.7)
9	15 (12.8)
10	2 (1.7)
不明	7 (6.0)
総 数	117 (100.0)

図4 Gleasonスコア別発見割合



### 7] 治療法別発見数

治 療 法	発見数 (%)
P S A 監 視 療 法	8 (6.8)
内 分 泌 療 法	40 (34.2)
内分泌療法、放射線療法	22 (18.8)
手 術 療 法	28 (23.9)
放 射 線 療 法	8 (6.8)
不 明	11 (9.4)
総 数	117 (100.0)

### 8] 初回、非初回別実施状況

※ 平成28年度地域保健・健康増進事業報告より、

初 回：当該年度を含まない過去3年間のうち、1回も前立腺がん検診を受診していない者

非初回：当該年度を含まない過去3年間のうち、1回以上前立腺がん検診を受診している者

#### (1) 実施状況

	受診者数	要精検者数 (%)	精検受診者数 (%)	発見がん数 (%)	陽性反応 適 中 度 (%)
初 回	3,888	390 (10.0)	273 (70.0)	31 (0.80)	(7.9)
非初回	22,105	1,543 (7.0)	1,118 (72.5)	86 (0.39)	(5.6)
総 数	25,993	1,933 (7.4)	1,391 (72.0)	117 (0.45)	(6.1)

## (2) 臨床病期 (ABCD分類)

ABCD分類	初 回	非初回	
	発見数 (%)	発見数 (%)	
B0	3	21	
早 期	B1	12 (73.3)	36 (83.1)
	B2	7	12
	C1	5	10
進 行	C2	2	1
	D1	0 (26.7)	1 (16.9)
	D2	1	1
	D3	0	1
不 明	1	3	
総 数	31	86	

## (3) 臨床病期 (Gleasonスコア)

### 1) 早期がん

Gleasonスコア別発見数 (%)	初 回	非 初 回	
	Gleasonスコア別発見数 (%)	Gleasonスコア別発見数 (%)	
6以下	3 (13.6)	6以下	22 (31.9)
7以上	19 (86.4)	7以上	45 (65.2)
不明	0 (0.0)	不明	22 (2.9)
総数	22	69	

### 2) 進行がん

Gleasonスコア別発見数 (%)	初 回	非 初 回	
	Gleasonスコア別発見数 (%)	Gleasonスコア別発見数 (%)	
6以下	0 (0.0)	6以下	1 (7.1)
7以上	7 (87.5)	7以上	11 (78.6)
不明	1 (12.5)	不明	2 (14.3)
総数	8	14	

(4) 初回のうち進行がんであった8人の精検結果状況

ABCD分類	検診時 P S A値	Gleasonスコア	TNM分類
C1	15.4	9	T3a, N0, M0
C1	27.6	7	T3a, N0, M0
C1	14.9	不明	T3a, N0, M0
C1	8.2	8	T3a, N0, M0
C1	18.6	8	T3a, N0, M0
C2	100以上	9	T3b, N0, M0
C2	6.1	7	T3b, N0, M0
D2	4.9	7	T3a, N0, M1

(5) 非初回のうち進行がんであった14人のH28年度と前回受診年度の検診及び精検結果状況

ABCD 分 類	H28年度受診			前回受診結果		
	検診時 P S A値	Gleason スコア	TNM分類	受診 年度	検診時 P S A値	精検結果
C1	4.6	不明	T3a, NX, MX	H27	4.3	前立腺肥大症
C1	15.1	8	T3a, N0, M0	H27	8.5	経過観察
C1	9.8	9	T3b, N0, M0	H27	2.7 (異常を認めず)	—
C1	7.8	7	T3a, N0, M0	H27	3.5 (異常を認めず)	—
C1	8.7	8	T3a, N0, M0	H27	5.2	精検未受診
C1	4.1	9	T3a, N0, M0	H25	1.6 (異常を認めず)	—
C1	4.9	6	T3a, N0, M0	H27	4.3	前立腺肥大症
C1	3.4	9	T3a, N0, M0	H27	3.7	前立腺肥大症
C1	17.6	8	T3a, N0, M0	H27	7.7	精検未受診
C1	5.5	不明	不明, 不明, 不明	H27	5.7	経過観察
C2	5.7	7	T3b, N0, M0	H27	4.8	前立腺炎
D1	8.2	7	T3b, N1, M0	H27	4.1	その他の疾患
D2	4.2	8	T2c, N0, M1	H27	3.1 (異常を認めず)	—
D3	14.1	7	T3a, N1, M1	H26	3.9 (異常を認めず)	—

(6) 非初回86人の前回受診結果と精検受診の状況

	発見がん数	前回受診結果	
		異常を認めず	要精検（精検未受診）
早期	69	21	48 (9)
進行	14	5	9 (2)
不明	3	0	3 (0)
総数	86	26	60 (11)

4 まとめ

今回の発見前立腺がん追跡調査結果では、117人のがんが確定され、全体のがん発見率は0.45%であった。年齢別にかん発見率（図1）をみると、50歳以上から加齢とともに上昇していた。

発見がん117人の臨床病期（ABCD分類）は、早期がんである病期B群が多く、B0が24人（20.5%）、B1が48人（41.0%）、B2が19人（16.2%）であり、全体の77.7%を占めていた（図2）。また、臨床病期TNM分類のうち原発腫瘍の深達度を分類するT分類では、がんが前立腺内にとどまっているT1c、T2a、T2b、T2cが多く、全体の93人（79.6%）であった（図3）。

Gleasonスコアでは、スコア6以下の病理組織学的に低悪性度群が27人（23.1%）、スコア7の中間群が50人（42.7%）、高悪性度群であるスコア8以上は33人（28.2%）であった（図4）。

初回受診と非初回受診別の実施状況をみると、要精検率は初回受診群10.0%、非初回受診群7.0%、がん発見率は初回受診群0.80%、非初回受診群0.39%、陽性反応適中度は初回受診群7.9%、非初回受診群5.6%であり、非初回受診群と比較して初回受診群の方が要精検率、がん発見率ともに有意（ $p < 0.01$ ）に高かった。また、臨床病期（ABCD分類）による早期がん割合では、初回受診群73.3%、非初回受診群83.1%と、非初回受診群の方が高かった。さらに、Gleasonスコアでは、スコア6以下の低悪性度群の割合が、早期がんでは初回受診群13.6%、非初回受診群31.9%、進行がんでは初回受診群0.0%、非初回受診群7.1%と、非初回受診群の方が早期がん、進行がんともに低悪性度群の割合が高い傾向を示した。前回受診結果と精検受診状況をみると、非初回86人のうち前回検診結果で要精検となった者が60人で、そのうち11人が精検未受診者であった。非初回受診群の早期がん割合が約8割と高く、Gleasonスコアにおいても低悪性度群の割合が多いことから、定期的に前立腺がん検診を受診することが重要であると考えられる。また、前立腺がん検診の精検受診率は72.0%と低く、非初回受診群で発見された確定がんの中には精検未受診者がいたことから、要精検者への適切な精検受診勧奨が必要であると思われた。

今回発見された前立腺がんの約8割が早期がんであったが、Gleasonスコアでは、積極的治療の対象となるスコア7以上が全体の約7割を占めていた。早期に発見された前立腺がんは治療法の選択肢も多く、根治の可能性があることから、要精検となった場合には、速やかに専門の精密検査医療機関を受診し、適切な診断・治療を受けることが重要であると考えられた。